

1631

明治十三年（自七月至十二月）

元老院會議筆記

自第九十七號至第二百十八號

記錄課

司 法 省 文 庫			
和	雜	三	一
書	書	四	一
部	門	五	一
號	函	架	冊
一	一	一	一



- 九番 本田 親雄
- 十一番 津田 眞道
- 十二番 河田 景與
- 十三番 楠本 正隆
- 十五番 大給 恒
- 十六番 中村 弘毅
- 十七番 伊丹 重賢
- 十九番 柴原 和
- 二十番 渡邊 驥
- 廿一番 細川 潤次郎
- 廿四番 林 友幸

○議長 第百九十七號議按第一讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシ

- 廿五番 大久保 一翁
- 廿七番 中島 信行
- 廿九番 伊集院 兼寛
- 三十一番 渡邊 昇
- 三十二番 箕作 麟祥
- 三十三番 山口 尚芳
- 三十四番 玉乃 世履

内閣委員 番外 太政官少書記官 田口 惠

午前第九時廿五分開場

○議長 第百九十七號議按第一讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

明治七年一月第五號布告海上衝突豫防規則別冊ノ通改正シ來九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

海上衝突豫防規則

總則

第一條 此規則中蒸氣船ト雖凡帆ニテ走り蒸氣ヲ用ヒサル時ハ帆前船ト看倣シ蒸氣ヲ用ユル時ハ帆ヲ用ユルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

燈火

第二條 各船日没ヨリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ラス第三條第四條

第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ記載スル燈火ヲ掲クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用ユヘカラス

第三條 蒸氣船ハ航海中必ス左ノ燈火ヲ掲クヘシ

(甲) 前檣又ハ其前面ニ於テ船体上二丈ヨリ低クカラサル所ニ亮明ナル白燈一個ヲ掲クヘシ若シ船幅二丈ヲ超ル時ハ船体上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ二十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ左右舷外ヘ十方位ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ五里海里ニテ算スノ以下之ニ倣ヘノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用ユヘシ

(乙) 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ

發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ右舷正
 横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少
 ナクモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用ユヘシ
 (丙) 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ
 發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正
 横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少
 ナクモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用ユヘシ
 (丁) 右舷紅ノ舷燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出タル屏風様ノ
 隔板ヲ其燈火ノ内側ニ當テ、裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ
 見ヘス左舷燈ハ右舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル様ニナスヘシ

第四條 蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ兩舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈

二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ、縦ニ連掲シ獨走ノ蒸氣船
 ト區別スヘシ此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ掲クル白燈ト同製ナルヲ
 用ヒテ同所ヘ掲クヘシ

第五條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク海底電信線ノ布置又ハ引揚
 ニ從事スル時及ヒ事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サル時ハ夜間ハ直徑
 八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船
 ニ掲クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少
 カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ又晝間ハ直徑二尺ノ黑球三個
 ヲ前下櫓ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カ
 ラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ
 右黑球及ヒ燈火ハ近寄ル他船ニ於テ運用自由ヲ得スシテ航路ヲ

避クル能ハサル船ノ信號ト看認ムヘシ

右ノ船全ク運行セサル時ハ舷燈ヲ掲クヘカラスト雖モ運行スレハ必ス之ヲ掲クヘシ

第六條 帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カル、トノ差別ナク白燈ヲ除クノ外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈ヲ掲クヘカラス

第七條 小形船ニ於テ天氣ノ模様ニ依リ綠紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難キ時ハ綠燈ハ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ様甲板上ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ各舷燈ヲ他船ヨリ最モ見ヘ易キ様各舷ニ標スヘシ但シ此時綠燈ハ左舷ヨ

リ見ヘス紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ
此綠紅ノ燈ヲ置違ヒ無ク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ綠色紅燈ノ燈籠ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且ツ成規ノ隔板ヲ之ニ備置クヘシ

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ船体上ヨリ二丈ヲ超ヘサル所ニ白燈一個ヲ掲クヘシ○此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ亮明ノ光ヲ發シ少クモ周回一里ノ距離ヨリ見ユル様ニ爲スヘシ

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用ユル燈火ヲ掲ケス唯橋頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發

スヘシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同様ノ
燈火ヲ掲クヘシ

第十條 甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ
用ユル舷燈ヲ掲クルニ及ハス然レモ舷燈ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝
子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠一個ヲ手近ニ備置キ他
船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク時ハ衝突
ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但シ此時ニ
綠燈ハ左舷ヨリ見ヘス紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ
右漁船及ヒ小船碇泊シタルカ或ハ網ヲ卸シタル時ハ亮明ナル白
燈一個ヲ標スヘシ且便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發スルモ苦シカラズ

第十一條 他船ニ追越サレシトスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈
ヲ標シ又ハ閃光ヲ發スヘシ

霧中信號

第十二條 蒸氣船ハ汽笛ヲ音響ノ妨碍物ナキ所ニ裝置シ且霧中號
角及ヒ號鐘ヲ備フヘク帆前船ハ全様ノ號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ
但此汽笛號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルヘカラス
霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本條ニ記載セル信號ヲ左ノ如
ク用ユヘシ

(甲) 蒸氣船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇コト
ニ長聲ヲ一發スヘシ

(乙) 帆前船航行中ハ號角ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇コト

ニ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタル時ハ三聲ヲ連發スヘシ

(丙) 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク航行中ニ非サレハ二分時ヨリ多カラサル間歇コトニ號鐘ヲ鳴スヘシ

霧中速力

第十三條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ速力ヲ以テ走ルヘシ

航法

第十四條 二艘ノ帆前船互ニ近寄りテ衝突ノ懼アル時ハ一方ノ船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

(甲) 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(乙) 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(丙) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同カラサル時ハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(丁) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シキ時ハ風上ノ船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(戊) 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十五條 二艘ノ蒸氣船正シク真向又ハ殆ント真向ニ往逢フテ衝突ノ懼アル時ハ兩船共鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク真向又ハ殆ント真向ニ往逢フテ衝突ノ懼ア

本時ニ限リ應用スヘク各其鐵路ヲ保チテ必ス替リ行ク時ニ應
用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ殆ン
下眞向ニ往逢ヒタル時即チ晝間ハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直
線又ハ殆ント一直線ニ見ユル時夜間ハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ一
時ニ見ユル時ニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鐵路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル時又
ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠
燈ニ對スル時又ハ我船ノ前面ニ綠燈ナクシテ紅燈ヲ見或ハ紅
燈ナクシテ綠燈ヲ見ル時又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他
ノ位置ニ見ル時ハ應用スヘカラス

第十六條 二艘ノ蒸氣船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ懼アル時ハ我船

ノ右舷ニ他船ヲ見ル方ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十七條 帆前船ト蒸氣船ト互ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ蒸氣船

ヨリ帆前船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 總テ蒸氣船他船ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ速力ヲ緩ニ

シ又ハ時宜ニ依リ停止シ又ハ後退スヘシ

第十九條 蒸氣船此規則ニ遵テ鐵路ヲ取ル時ハ左ノ汽笛信號ヲ以

テ他船ニ其鐵路ヲ通知スルヲ得ヘシ

短聲一發 我船ノ鐵路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船ノ鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船一杯ノ速力ニテ退却ス

此信號ヲ用ユルト否ヲサルトハ隨意タルヘシ但此信號ヲ用ヒタル時之ヲ用ヒタル船ハ必ス其信號通りニ其鐵路ヲ取ラサルヘカラス

第二十條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク他船ヲ追越サントスル時ハ以上ノ規則ニ拘ラス總テ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 總テ蒸氣船狹隘ノ水路ヲ通航スルニ當リ無難ニ通行シ得ル時ハ其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十二條 以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クル時ハ他船ニ於テ其鐵路ヲ保守スヘシ

第二十三條 此規則ヲ遵守スルニ付テハ航海上百般ノ危險ニ心ヲ配リ且危險切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テ

其ハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避ルニ注意スヘシ
懈怠ノ責

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事

件ニ於テハ船主、船長、乘組人員各其責ヲ免ル可カラサルモノトス

別則
第二十五條 此規則ハ各地官府ニ於テ特ニ設定シタル港川其他内

海ノ航行規則ノ施行ニ干涉セサルモノトス
第二十六條 此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラルル船

ニ増揚スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定

シタル規則ニ干渉セザルモノトス

○外二番田口 本按ノ頒布ヲ要スル理由ヲ陳セン夫レ海ハ萬國普通

ノ公路ナリ舟楫相通シ舳艫相接ス此ニ於テカ往々衝突シテ貸ヲ没
シ入ヲ亡シ酸鼻ニ堪エサルモノアリ故ニ之カ防護ノ爲メ規則ヲ制
定スルハ緊要欠クヘカラサルモノトス然レモ各國各自其法ヲ異ニ
セハ嘗ニ其衝突ヲ防ク能ハサルノミナラス却テ之ヲ招クノ恐レア
リ曩ニ英國其航海ノ慣習法ヲ采リ各國ト協議シ以テ之ヲ公法トセ
リ我明治七年第五號布告ハ迺之ニ依ルモノナリ然ルニ昨十二年
英國ニ於テ更ニ該法ヲ改正シ復タ歐米諸邦ト協議シ其確定スル
彼ノ公使ヨリ之ヲ我政府ニ報道セリ由テ我政府ハ現行規則ニ照シ
其支梧スル所ヲ潤色シ以テ本按ヲ發セントス但本按ノ如キハ素ヨ

リ我國ノ法律ト云フト雖モ亦萬國公法トモ稱ス可キモノナリ抑々

現行規則ハ二十ヶ條ナルヲ這般其第十一條ヲ削除シ新ニ第五第十

一第十三第十九第廿一第廿五第廿六ノ七ヶ條ヲ加ヘ通計廿六ヶ條

トシ其他稍ヤ改正ヲ爲スモアリ是務メテ彼ノ規則乃チ公法ニ準

フヲ以テナリ然レモ其間全ク彼ト殊ニスルモノハ第十條ト第十二

條ナリ蓋シ其第十條ハ漁舟ニ用フル燈火ノ製造方ニシテ若シ彼ノ

如クセハ其費額夥シク我無方ナル漁人ノ能ク堪ル所ニ非ス又第十

三條ハ彼ハ器械ヲ以テ號角ヲ爲スト雖モ我ハ未タ之ニ熟セサルヲ

以テ姑ク舊ニ依リ從來ノ號角ヲ用ヒントス是レ其彼レニ殊ナル點

ノミ請フ速ニ議決セラレシトテ

○十九番柴原 内閣委員ノ辯明ヲ聞クニ本官尙未タ疑ヒナキ能ハス

○夫レ海上衝突豫防規則ハ明治五年始メテ之ヲ發シ七年ニ至リ之カ
 改正アリ此ニ於テカ該規則ハ全ク具備シタルモノ、如ク試ニ之ヲ
 本按ニ比較スルニ前ニ總括トアルヲ今ハ總則ト改ムルカ如キ唯文
 字ノ修正ニ過キス且現行規則ト雖モ既ニ歐米ノ規則ニ據リ未タ一
 ノ支障アルヲ聞ス然ハ則チ本按ハ畢竟外國ニ對シテ表面ヲ粧飾ス
 ルニ外ナラサルナリ原來法令ノ繁ナルハ治者被治者共ニ齊ク好マ
 サル所ナリ那ノ徵兵令ト云ヒ郵便規則ト云フモ皆實際支障アリテ
 始メテ之カ改正ヲ爲ス現行規則ノ如キハ向ニ明治七年ニ方リ更ニ
 改正セシヲ以テ既ニ善美トモナリ今若シ僅々文字等ノ修正ヲ爲
 スハ寧ロ之ヲ現行規則ノ追加トナシテ可ナリ何ソ必ス本按ヲ頒布
 ヲ須ヒンヤ然レモ數年來現行ノ規則ヲ施行スルニ方リ眞ニ障礙ア

○然ルヤ否ヤ請フ詳ニ之ヲ聞クハ
 ○外一番田口十九番ハ文字上ノ改正ニ止ラレハ本按ヲ要ス下云
 ト雖モ其頒布ヲ要スル理由ハ本員前ニ之ヲ説クリ以テ改正ノ必須
 ナルヲ領得スヘシ本按ハ固ヨリ文字上ノ改正ノミニアラス既ニ七
 ケ條ノ追加アリ其他改正ヲ要スル件ハ一ニシテ足ラス那ノ燈火ノ
 如キ其光明ハ同一ナルモ其改正スル所ト現行規則トヲ比較セハ得
 失自カラ分明ナラシ前ニモ陳ル如ク本按ニ關スル所管ニ自國ノ用
 ニ非マラス各國各自其法ヲ異ニセハ其衝突ヲ豫防スルニ縁ナシ今
 ヲ海外各國ノ交リ日ニ月ニ熾シナル時ニ當リ此改正ノ如キハ緊要
 次々ヘカヲサル者トス
 ○三十四番玉乃内閣委員ニ問フ本按第三條甲ノ末項ニ海里ニテ算

○ス云々ノ挿注アリ舊規則ニハ海里ノ一里ハ陸里ノ十六丁云々ヲ注
 釋アルヲ以テ人民ハ其丈量ヲ知ルヲ得ヘシト雖モ本按ニハ之ヲ載
 モサレハ普ク知悉セシムルノ便ヲ欠ク然レモ他ニ其丈量ヲ示スノ
 公布アリヤ否ヤ各日其海軍省ニ其海軍省ノ規則ニ其丈量ノ事
 ○番一 番田口 其年月ハ爰ニ逸シタレモ其布告ハ既ニ之アリト思惟
 セリ且近來驛遞局海軍省共ニ海里ニハ特ニ注釋ヲ下サレルノ内規
 アリ故ニ本按モ亦之ニ因レリハ其丈量ノ事ニ其海軍省ノ規則ニ其
 ○二十三番 大川 本按ハ萬國交際法ノ一部分トモ稱スヘキモノニ
 シテ勢ヒ此ノ如ク變更セサルヘカラス然レモ此變更ヲ爲スニ方リ
 若シ別ニ障礙アリトセハ乃チ止ムヘキモ敢テ障礙モナク且現行規
 則ヲ改良スルニ過サレハ此ノ如キハ極メテ喜フヘキコナリ或ハ其

○請求ハ外國ヨリ之ヲ爲シタルモノナラントノ疑ヒアルヤ知ルヘカ
 ラスト雖モタトヒ之アリトスルモ今此改正ヲ爲スハ全ク獨立國タ
 ルノ面目ヲ以テ制定スル所ノモノニシテ之ヲ國辱トシ之ヲ卑劣ト
 爲スノ理由ハ萬々之アルコナシ本官ハ特ニ本按ニ限ラス法律ハ固
 ヨリ電信ト云郵便ト云貨幣ト云言語ト云務メテ萬國ヲ通シテ一ナ
 ランコヲ欲スト雖モ其事タル頗ル至難ナルヲ如何セン而シテ今此
 海上衝突豫防規則ヲシテ各國共ニ一ナラシメントスルニ逢フ安ソ
 異議ノ容ルヘキアラシヤ故ニ本按ハ毫モ間然スヘキナシトス但文
 字ノ修正ニ至リテハ第二讀會ヲ俟テ之ヲ述ンルニ其丈量ノ事ハ
 ○十五番 大給 海上衝突豫防規則ノ内外同一ナラサルヘカヲサレハ
 内閣委員ノ辯明セシ如シ然レモ其文章ハ彼我殊ニスルヲ以テ唯其

實ヲ同フセハ適ナ可ナリトス故ニ茲ニ本按ヲ采テ現行規則ト比較
 ○スルニ其同シカラサルハ唯七條ヲ追加アルニ過ス而シテ其文体
 ノ如キモ本按ハ現行規則ノ綿密ニシテ且解シ易キニ如カス此ノ如
 ク論シ去レハ此改正ヲ要スルノ理由未タ以テ盡サトルカ如シ敢テ
 請フ再ヒ内閣委員ノ辯明ヲヲシヨラセシムルニテ
 ○外一番 田口 改正ノ要ハ追加ノ七條ヲ以テ其最タルモノト然レ
 且其他ノ改正モ皆要用ナルハ前陳ノ如シ猶現行規則ト本按トヲ熟
 思セハ自ラ釋然タラシムルニ本按ハ其ノ則ニ則テ其旨ハ固
 ○廿七番 中島 内閣委員ニ問フ本按ハ已ニ明治七年第五號布告ノ海
 上衝突豫防規則改正ト云ハ其九年ニ至リ第十號ヲ以テ布告セ
 シ則則モ併セテ廢スルモノト看認メテ可ナルヤコトヲ問フハ

○外一番 田口 今回ノ改正ハ其副則ニハ關係セサルナリ
 ○廿七番 中島 本按第十條ニ甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船云々ト
 アリ明治九年第十一號布告第一條ニハ西洋形回漕船ハ勿論日本形
 卜雖モ積石百石以上云々トアルハ彼此相關セサルモノナルヤ
 ○外一番 田口 本按第十條ニ謂フ所ノ船ハ百石未滿ノモノヲ示セル
 ナリ
 ○六番 神田 本按ノ來歴タル英國ノ起草ニ成リ文明諸邦ノ協議ヲ遂
 ケ殆ト萬國公法ト同一ナルモノト爲サハ我國ノ公使モ亦既ニ此議
 ニ協同セシヤ又英國公使ヨリノ通牒ト云ヘハ彼ヨリ其議定ノコトヲ
 ○我ニ報道セシノミニ止マリ我ノ之ヲ允當ナリト認ルヲ以テ始メテ
 本按ヲ頒布セントスルニ在ルヤ將タ彼ヨリ我ニ對シ此改正ヲ請求

スルモノナルヤ

○田口一番外 本規則ハ各國協議シテ之ヲ制定セシモノニ非ス特ニ

英國ニテ作りタルモノナレ其法適切便利ナルニ因テ各國之ヲ采

リ自ラ諸邦ノ模範トナルニ至レリ故ニ我公使モ亦始ヨリ此議ニ參

○ 與セシニ非ス又彼ヨリ此改正ヲ我ニ強請シタルニ非ス唯德義上我

ニ報道シ來レルモノナリ我亦彼ノ報道ニ從ヒ枉ケテ之カ改正ヲ爲

○ サントスルニ非ス既ニ此法ニ倣ヒ各國一般航海法ヲ變更シタル以

上ハ我亦之ニ據ラサレハ實際支障アリトシテ然ルノミ

○ 廿七番英作 麟祥 本按第廿四條ノ場合ニ於テハ現行規則ニ據レハ船主

○ 船長等ハ其責ヲ免レサルモ船舶ハ其責ニ任セス而シテ本按ハ之ニ

○ 反シ其船舶ニモ及フモノトセリ原來器物ニ責任ヲ負ハシムルハ新

○ 奇ノ法按ニシテタトモ英國ノ如キハ此慣習アルモ今我國モ亦此ノ
如クスルハ抑々據ル所アリテ然ルヤ

○ 田口一番外 此慣習ハ特ニ英國ノミニアラス他邦モ亦之アリ其船

○ 船ニ責任ヲ負ハシムル如キハ固ヨリ理ナキニ非ス何トナレハ實際

○ 衝突ヲ爲シ其船主船長等悉ク隱匿スルカ如キトアラハ其船ヲ拘留

○ シ之ニ責任ヲ負ハシムルハ是レ被害者ヲ保護スルノ方略ニシテ陸

○ 上ノ事件トハ同シカラス況ヤ本邦ノ船モ各國ト同シタ海ノ東西ヲ

○ 擇マス航行スルキハ彼我同一ナル處分ナカルヘカラサルニ於テヲ

○ ヤ故ニ此事タル我國ニ在テハタトヒ新奇ノトナリトスルモ宜シク

○ 斯ノ如クナサルヘカラサルモノトナセリ

○ 三十四番玉乃 世履 今內閣委員ノ辯明ニ對シ本官尙又辯明ヲ要スルモ

○ノアリ抑々船ニ責任ヲ負ハシムルハ即チ被害人ノ賠償ニ充ル爲メ
ナリト云ハ、其損害ノ償ハ獨リ船ニ止マリ他ノ財産ニ及ホサ、ル
カ將タ都テ船主ノ所有物ニ及フヘキカ若シ其所有物ニモ及フモノ
トセハ特ニ船ノ字ヲ明掲スルヲ要セサルヘシ如何
○番一田口 船ヨリ生スル爲ニ之ヲ加ヘタルナリ他ノ財産ヲ以テ
外惠 其賠償ニ充テ不足セル時ノ爲メニ非ス船ニ非サレハ其責ヲ負ハシ
ムル能ハサルコトアルカ爲メナリ
○議長 發議盡キタルヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢ルニ因リ
○番一田口 本按ハ特ニ急施ヲ要スルヲ以テ成規ニ拘ラス第二讀
外惠 會ヲ開カレンコトヲ請求ス
○議長 內閣委員ノ請求アリ依テ明日引續第二讀會ヲ開ントス之ニ

同意者ハ起立スヘシ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ明日例刻ヨリ第二讀會ヲ開ク可シ本日ハ散
會セヨ

午前第十時五十分閉場

元老院會議筆記明治十三年七月十四日
 ○第百九十七號議按
海上衝突豫防規則 改正ノ儀布告按 第二讀會
 議長 佐々木高行
 代理

出席議員

- 一番 齋藤 利行
- 四番 安場 保和
- 六番 神田 孝平
- 七番 東久世通禧
- 九番 本田 親雄
- 十一番 津田 眞道
- 十二番 河田 景與

○第百九十七次臨時議會

- 十三番 楠本 正隆
- 十六番 中村 弘毅
- 十七番 伊丹 重賢
- 十九番 柴原 世和
- 二十番 渡邊 驥
- 廿一番 細川 潤次郎
- 廿四番 林 友幸
- 廿五番 大久保 一翁
- 廿七番 中島 信行
- 廿九番 伊集院 兼寛
- 渡邊 昇

出席議員

出席議員 廿五番

○第百九十七次臨時議會

○第百九十七次臨時議會

○第百九十七次臨時議會

州四番 玉乃 世履

○第百九十七次臨時議會

午前第九時三十分開場

○議長 本日 議長他

按第二讀會

○第百九十七次臨時議會

明治七年

○第百九十七次臨時議會

○第百九十七次臨時議會

○十七番伊丹重賢 本按ハ修正ス可シ其修正ハ九月一日ヨリ施行トアル

○點ナリ何トナレハ本日悉ク第二第三讀會ヲ畢ヘ明日直ニ之ヲ布
令スルモ其實施ノ日迄ハ漸ク四十八日ニ過キス此ノ如キハ七年第
四十八號ノ自今布告布達共該地到達ノ翌日ヨリ管轄内ヘ觸示迄膳
寫印刷等ノ日數ヲ廿日ト定メ其翌日ヨリ三十日ヲ過レハ一般ノ人

○民之ヲ知得タルコト見做云々トアル府縣ヘフ達書ニ抵觸スルノ恐
レアリ猶且此僅ヤノ日數ヲ以テ寒郷僻地マテ周知セシムルコトハ實
際能ハサルニヨリ本按ノ九月一日ハ十一月一日ト修正スルヲ可ト

ス

○二十七番中島信行 賛成ス本按ハ第十條ニ載スル如ク漁船ニモ及ホス

ノ法律ナレハ延期周到スルヲ可トス番

○議長 十七番ノ修正說ヲ問題ト爲ス貴州縣マ支那セヤ日本海ニ大

○十九番柴原和 布達ヲ全國ニ布及スルニ率テ六十日ノ日子ナカル可

ラス故ヲ以テ縱令急施ヲ要スレハトテ九月一日ヨリト云ハ實際行
フ可ラサルナリ仍テ修正說ヲ可トス官ニ視見シ奉答リ期ニ到ルハ

○二番齋藤利行 本官ハ必スシモ修正ヲ要セスト思考スレト既ニ十七番

○三說アル以上ハ之ニ左袒ス但九月一日トセハ恐ラクハ施行シ難カ

ラシクハ同マニ待望ノ情アリト云

○外一番田口 本按ハ海上人民ニ施行スルモノナレハ其實通常ノ布

今日限ヲ用ラルモ猶足ルヤ否ヤヲ期シ難シト雖前會ニモ述ル如
ク本按ハ唯現行規則ノ弊害ヲ除去シ其缺漏ヲ補充スルニ過サルモ
ソナレハ必ス新法ヲ布キ新令ヲ發スルノ類ニアラス或論者ハ本按

時ハ其艦ヲ左スルヲ法トスレモ這般ノ規則ハ其風ヲ受ルノ方位ニ
 因リ其航路ヲ避ルヲ例トスルカ如シ故ニ我國ニハ縱ヒ周知日限ノ
 規則アルモ之ニ拘泥スヘカラス九月一日後ニシテ獨リ我國人ノミ
 猶舊法ヲ遵守セハ啻ニ其船ノ衝突ヲ防ク能ハサルノミナラス必ス
 ヤ大禍ヲ招クノ恐レアリ事此ニ至ラハ外國ヘ對シ何ヲ以テ之ヲ辯
 スルヲ得ルヤ顧ミテ實際ノ利害ヲ念ヘハ周知日限ノ規則ト雖モ亦
 墨守スヘカラサル場合アリ看ヨ那ノ虎列刺病豫防規則ノ如キ又檢
 疫停船規則ノ如キ其布令ヲ要スルノ急ナルニ於テハ固ヨリ例規ニ
 據ラス急施セシ例アルニ非スヤ既ニ此例アリ又此理アリ何ソ本按
 ノ如クシテ不可ナルコトランヤ

○四番 安場保和 本按ノ要用ナルハ内閣委員ノ辯明ニテ之ヲ盡セリ果シ

テ然ラハ若干日ノ猶豫ヲ與ヘ航海者ノ熟知ヲ俟テ之ヲ施行セサル
 可ラス仍テ十七番ノ修正說ヲ贊成ス

○十九番 柴原和 或論者ハ十一月ト修正スルハ漫然ナリト云ト雖モ斯
 ノ如クセハ今ヨリ計算シテ百日許ノ猶豫アルヲ以テ地方官モ亦誠
 實ニ説諭スルノ時間ヲ得他日ノ支障ナキヲ信ス豈之ヲ目的ナシト
 センヤ又内閣委員ハ虎列刺病豫防規則等ヲ引テ那ノ第四十八號布
 達ニ據ルヘカラサルコアルヲ証スト雖モ該規則ハ行政上慈仁ノ點
 ニ成ルモノニシテ本按ノ類トハ全ク其主趣ヲ殊ニス彼ヲ引テ之ヲ
 駁スルハ諺ニ飯匙爲規ト云フ可キナリ

○三十三番 山口尙芳 原按及ヒ十七番ノ修正說共ニ一理アレモ又其害ア
 ルヲ免カレス何トナレハ之ヲ十一月一日ヨリトシ若シ九十兩月間

ニ衝突ノ恐レアルキハ如何スヘキヤ又九月一日ヨリトセハ之ヲ人
 民ニ周知セシムルノ暇ナキヲ如何セシ故ニ之ヲ布令スル以上ハ勢
 ヒ周知日限ニ據テ處セサル可ラス然ラズンハ所謂教ヘスシテ殺ス
 ノ類ナリ是ヲ以テ本官ハ其中間ヲ采テ原按ナル九月一日ノ四字ヲ
 削除セントス然ラハ僻遠ノ地方ハ一般ノ規則ニ從ヒ若干日間ハ此
 法ヲ以テ處スルヲ要セサルモ外國人ニモ其情實ヲ知ラシメハ敢テ
 之ヲ聞カサルノ理ナク而シテ近接ノ地方ハ早ク之ヲ知り自ラ警メ
 テ其害ヲ避クルヲ勉ムヘシ此ノ如クシテ始メテ其害ノ少ナキヲ得
 シ仍テ若シ十七番ノ說消滅セハ本官ハ之ヲ提出セントス
 ○三十四番 玉乃 世履 十七番ヲ賛成ス蓋シ政府前ニ周知日數ヲ定メタル
 理由ハ之ヲ知ラサル者ニ罰ヲ加フルナカラシメンカ爲メヨシテ是

萬國普通ノ理ナリ既ニ其制限アリ而シテ本按ヲ頒布セハ獨リ法律
 ノ支吾アルノミナラス人民保護ノ主義ハ何ヲ以テ立ツヲ得ンヤ原
 來法律ハ一個人ニ關スルヲト數人ニ關スルヲトノ別アリ本按若シ
 一個人ノミニ關ストセハ三十三番ノ說ノ如キモ猶可ナリト雖此已
 ニ數人ニ關スルモノナレハ甲乙共ニ之ヲ熟知スルニ非レハ衝突ヲ
 防ントシテ却テ衝突ヲ爲サシムルノ具ト爲ルヘシ如カス周知日限
 ヲ守リ幾許日ハ我ノミ現行法律ニ從ハンニハ若シ之カ爲メニ外國
 船ト衝突スルコアルモ其間ハ彼我共ニ法律ヲ遵守シタルカ爲メ生
 セシコナレハ強國ニ對スルモ我何ソ恐ル、コ足ラン又内閣委員ハ
 流行病豫防規則ヲ引証シテ論スト雖モ該規則ノ如キハ即チ一個人
 ニ關スルモノニシテ本按ノ人ト人トノ關係アルノ類ニ非ス故ニ十

七番ノ修正説ヲ可トス

○十六番

中村弘毅

本按ヲ可トス或論者ハ九月一日ニテハ全國へ布令ス

ルノ暇ナシト云フト雖モ本按ハ概シテ航海者ニ係ルノ法律ナレハ假令全國ノ人悉ク之ヲ知ラサルトモ害ナシトス加之航海者ハ我國現今其數實ニ多カラスシテ中ニモ外國ニ關係アルハ專ラ西洋形船ニシテ其所有者ノ少ナルハ又以テ知ル可キナリ故ニ九月一日ヨリトスルトモ敢テ全國へ布令スルノ暇ナシト謂フヘカラス此ノ如キハ行政者ノ宜ク得テ爲スヘキコニシテ本按ハ特ニ外交ニ關係アルモノナレハ須臾モ猶豫ス可ラス本按可ナリ

○二十七番

中島信行

或論者ハ本按ノ如キハ概シテ航海者ニ周知セシムレハ足レリ九月一日トアルモ布令ノ暇ナキニアラスト云フト雖モ

縦ヒ全國ニ布令スルモ一部人民ニ布令スルモ其順序ハ一ナリ然レ則チ之ヲ布令スルノ暇ナシト云モ豈理ナカラシヤ原來各國ト共ニ此規則ヲ遵守セント云フハ可ナルモ我人民ニ對シテ彼ト同時ニ施行セントスルハ太タ不可ナリ何トナレハ彼ノ如キハ早ク既ニ此議アリテ其國民ハ施行ニ先チ新聞紙等ニテ豫メ之ヲ知ルヘシト雖モ我人民ハ頒布ノ日ニ至リテ始メテ之ヲ知ルヲ以テナリ故ニ此僅々ノ日數ニテ之ヲ施行セントスルハ最モ民情ニ遠キ説ナリ況ヤ本案ヲ頒布スル以上ハ我人民ハ新法ヲ知ルノ暇ナク舊法ヲ守リタルカ爲メ衝突スルコアレハ彼ニ對シテ法律ノ義務ヲ負ハサル可ラサルノ難アルニ於テヤ然ルヲ修正説ノ如クセハ假ヒ其前ニ衝突スルコアルモ我周知日數ノ例規ヲ援テ彼ニ説カハ彼レ豈之ヲ強ルノ理

アラシヤ況ヤ亦其事タル數十ヶ月ヲ要スルノ遠キニ非ス僅ニ二ヶ月間ナルニ於テヲヤ仍テ十七番修正説ノ如クス可シ

○三十三番山口 尙勞十七番ノ修正説ハ甚タ解シ難シ本案ノ急施ヲ要ス

ルハ内閣委員己ニ之ヲ喋ヤシ各位モ亦知悉スル所ナリ然ルニ却テ尋常ノ布令ヨリ其期ヲ緩フセントスルハ奇モ亦太甚シカラスヤ既ニ本案ハ十六ヶ國協同シテ成ルノ法律ナレハ以テ萬國公法ト稱スルモ可ナリ且港内ナレハ其國ノ法律ニ憑ルヲ得ルモ海岸三里ヲ離ル、其ハ萬國公法ニ遵ハサルヘカヲサルモノニシテ此ニ至レハ我周知日數ノ規則ハ更ニ功力ナキモノナリ故ニ本案又頒布ハ須臾モ之ヲ忽ニス可ラサルヲ以テ其修正説ハ不可ナリトス然レトモ又九月一日トセハ實際我人民ニ周知セシムル能ハス故ニ本官ハ其期限

ヲ定メヌ我東京ニ近接シテ迅ク之ヲ知ルヲ得ルモハ早ク新法ニ

據ラシメ遠隔ニ其急ニ之ヲ知ル能ハサルモノハ猶平常ノ到達日限

ニ憑ラシメント欲スルナリ

○外一番田口聊カ前説ノ不足ヲ補充セン九月一日ハ今日ヨリ猶四

十餘日アリ其頒布後二十日間ノ猶豫ハ元ヨリ縮少スヘカヲサルモ

其頒布ニ至ルノ日數ハ其例規ニ拘ラス之ヲ急ニスルヨヲ得ルヲ以

テ九月一日トスルモ決シテ周知セシムルノ暇ナシト云フ可ラヌ況

○ヤ斯人如キハ行政者ノ容易ニ行フヘキモノナルニ於テヲヤ

○十一番津田 眞道本按ヲ可トス元來内閣ニテハ九月一日ヨリ施行スル

ヲ得ヘキ心算アルニ因リ此日限ヲ定メタルナルヘシ或議官モ論スル如ク其頒布後二十日間ノ猶豫ハ必要ナレト其印刷等ノ如キハ數

日ヲ出スシテ之ヲ爲スノ方法ナキニ非ルヘシ之ヲ印刷局ニ命セン
乎一朝ニシテ能ク辦スルヲ得ン然ラハ本按ノ日數ニテモ猶餘リア

○ルモ知ル可ラス故ニ十七番等ノ杞憂ヲ要セサルナリ

○六番 神田 孝平 本官ハ本按修正共ニ左祖スル能ハスシテ別ニ説アリ由

テ先ツ内閣委員ノ辯明ヲ請ヒ而シテ後其所見ヲ開陳セントス抑々

本按ハ其施行ノ期日ニ至ル迄悉皆英國ヨリ請求スルモノナルカ果

シテ然ラハ其行フ能ハサルコトヲ強ルモノナルヲ以テ之ヲ謝絶シテ

○可ナルカ如シ又彼ヨリ其通牒アリタルハ何月何日ナリヤ若シ其日

遠キニアラサレハ又謝絶シテ可ナルカ如シ其答ヲ待ツ

○外 田口 惠 番一 本按ハ英國代理公使ヨリ我外務省ヘ注意ノ爲メ報道

シタルモノナリ故ニ改正ト云ヒ施行期日ト云ヒ其我ニ要請セサル

ハ論ヲ竣タス而シテ其報道ハ本年中旬ナリト記憶セリ

○十七番 伊丹 重賢 或論者ハ本官等ノ説ニ對シ斯ル杞憂ヲ要セスト云フ

ト雖モ又本按ニ限リテ特別急施ヲ要スルトシテ意ハ文中一モ之アル

ヲ見ス然レハ地方官ハ之ヲ尋常布告ト同一視スルヤ必セリ又縦ヒ

急施ヲ要スルモ九月一日ニテハ果シテ實際行フ能ハサルヘシ如何

ツ之ヲ顧慮セサルヘケンヤ

○十一番 津田 眞道 十七番ハ本按ニ限リ特別急施ヲ要スルノ意ハ文中一

モ之ナシト云ト雖モ既ニ九月一日ヨリ施行トアレハ其急施ヲ要ス

ルハ別ニ喋々ヲ要セサルナリ且此ノ如キハ地方行政者其人アルヲ

以テ本官等ノ之ヲ顧慮スルヲ要セス若シ之ヲモ顧慮スルト云ハ、

區戸長ノ處分モ亦論セサルヘカラサルニ至ラン故ニ本按ニテ毫モ

不可ナシ

○十六番中村

十七番ノ説ハ偏ニ周知日數ノ規則ニ拘泥シタルモノ
ナリ然ルニ該規則ハ果シテ完全無缺ト稱ス可キモノナルカ決シテ
然ラズ誠ニ人民ノ周知ヲ期セントナラハ明年施行ノ事件ハ今年之
ヲ布令スルニ非レハ必ス其目的ヲ達スル能ハサルナリ畢竟周知日
數ヲ二十日ト限リタルハ只裁判上ノ關係ニ依ルノミ且該規則ノ到
達日數ハ郵便里程ニ據リテ定メタルモノナレハ其實多ク日數ヲ要
セサルモ布令スルノ法アリ況ヤ本按ハ航海者ノ爲メニ立タルノ法
ナレハ已ニ陳述セシ如ク全國悉ク之ヲ周知セサルモ其航海者ノミ
之ヲ周知セハ可ナルモノナルニ於テヲヤ然ハ則チ九月一日ニテモ
之ヲ施行シ難キニ非サルナリ又況ヤ本按ニシテ新奇ノ法例ナラシ

○シメ九月一日ハ或ハ急ナルニ似タレモ已ニ現行規則ト大同小異

ナルニ於テヲヤ旁々延期ヲ要スルノ理由ナキモノトス

○十九番柴原

反對論者ノ要旨ハ全國之ヲ周知セサルモ航海者ノミ
之ヲ周知セハ可ナリ故ニ本按ニテ不可ナシト云フニ在リ然レトモ

○已ニ二十七番モ論スル如ク之ヲ全國へ布告スルモ單ニ航海者ノミ

ニ布告スルモ其順序タル齊シク一ナリ且本按ハ本院ノ會議ヲ經過
スルニ猶幾日ヲ要スルヤ未タ知ルヘカラス況ヤ各府縣へ頒布シ及
ヒ其廳ニテ印刷謄寫シ其管下へ布告スル如キモ凡ソ三十日間ノ猶
豫ハナカルヘカラサルニ於テヲヤ要スルニ夫ノ三菱會社所屬船ノ
如キハ敢テ顧慮ヲ煩ハサ、ルモ本按ハ歐那僻地ノ小船ニモ及フモ
フナレハ遂ニ十七番ノ修正ノ如クナラサル可ラス

○六番 神田 孝平 内閣委員ノ説明ヲ得テ本官大ニ前議ヲ不是ナルヲ知レ

リ仍テ其議ヲ更メ更ニ原按ニ左袒ス彼ヨリノ通牒ハ三月中旬トア
レハ今ニシテ謝絶スルノ道ナシ然ハ則チ假ヒ我人民ニ不幸ヲ蒙ラ

シムルアルモ寧ロ各國ト同日ヨリ之ヲ施行シ我外面ヲ裝飾スルニ
如カス唯從來幾多ノ日子ヲ經過シ今日ニ至リ卒然此改正ノ議アル

ヲ惜ムノ外ナキノミ

○二十番 渡邊 彌 本按ヲ可トス唯布令後三十日間ノ日子ヲ與ヘハ充分

ナルモノナリタトヒ遠隔ノ地方ト雖モ亦特別急達ノ方法ガキニ非
ス印刷ノ如キハ之ヲ急ニセハ一夕能ク數万部ヲ調成スルヲ得ヘシ

必竟行政官吏ヨリ之ヲ視ハ論者ノ顧慮ノ如キハ無用ナルノミ

○十三番 楠本 正隆 十七番ヲ賛成ス元來布告ヲ周知セシムルハ尋常一様

ノモノモ尙困難アリ況ヤ船舶ハ運轉シテ一所ニ止ラサルヲ以テ其

人數ハ多カラサルモ實際之ヲ周知セシムルハ至難中ノ至難ナルモ

ノナルニ於テヲヤ或論者ハ假ヒ我人民ニ禍害アルモ寧ロ各國ト此

施行期日ヲ同フスヘシト云ヘリ此ノ如キハ安ソ政府ノ行フヘキ道

ナランヤ又期限削除ノ説アレモ是又齊ク弊害アルヲ免レヌ何トナ

レハ東京長崎ハ遠隔ニ似タリト雖モ海路ヲ駛行セハ數日ニシテ共

ニ相接スルヲ得而シテ此ハ中央政府直接ノ地ナルヲ以テ九月一日

前ニ此法ヲ實施シ彼ハ隔絶ス人ナルヲ以テ其以後ニアラサレハ之

ヲ知ラストセハ却テ禍害ヲ誘導スルモノナレハナリ如カス十七番

修正説ノ如クセンニハ

○二十一番 細川 潤 次郎 昨日第一讀會ヲ畢ヘ今日直ニ第二讀會ヲ開キタ

○此ハ畢竟本按ノ急施ヲ要スルカ爲メナリ則チ嚙昔ニ在テハ各位之ヲ認メテ可トシ今日忽チ施行延期ノ動議アリテ討論ニ時ヲ移スハ意外ノ事ナリト云サルヘカラス從來議按ニ其施行ノ期日ヲ明揭セズ或ハ餘白ヲ存シ或ハ單ニ月日トノミ掲クルモノ往々之アリ今若シ周知日限ノ規則ヲ制定スルモノナリトセバ日限伸縮ハ固ヨリ論セサルヘカラスト雖モ本按ニ就テハ最モ之ヲ議スルヲ要セス蓋シ此等ノ處分ハ總テ行政官吏ニ任スルキモノナレハナリ惟フニ本按ハ外國ト關係アルモノナレハ其施行期日ヲ掲ケスシテ本院ノ議定ニ付シ特ニ九月一日ノミナラス或ハ八月十五日トシテ之ヲ施行セラル、モ如何トモ爲ス能ハサルモノナリ然ルニ反對論者ハ深ク周知日限ノ規則ニ拘泥スト雖モ本按ハ其取除ト視レハ何ノ不可ナル

○トアラシ凡テ法律ハ必ス其取除ナカルヘカラス例ヘハ人ハ禮讓ヲ守ラサルヘカラサルモ或ハ相敵シ相殺スコアリ向日傳染病豫防規則ノ布告後檢視ニ付セラレタルモ亦取除ナリ又外國ノ敵ヲ受ケ臨戰合圍ヲ布告シタル時ニ在テハ吾人全ク地方官ノ羈範ヲ脱シ軍人ノ統御ニ歸シ專ラ軍律ニ従ハサルヲ得サルモ同ク取除ナリ本按ノ如キハ乃チ其取除ナルモノナレハ九月トアルモ八月トアルモ素ヨリ敢テ不可ナルコサシ蓋シ本官令之ヲ指シテ取除ト稱スル理由ヲ擧シニ海ハ宇内ノ共有物ニシテ一國ノ能ク支配シ得ルモノニ非ス乃チ萬國公法ニ據ラサル可ラサルモノナリ已ニ其公法ノ制定アル以上ハ如何ソ之ニ則トリ之ヲ守ラサルヘケンヤ則トレハ害ナク守ラサレハ禍ヲ來ス内閣委員モ已ニ論スル如ク本按ハ我法律ニシテ

我法律ニアラスト故ニ之ヲ一般法律ノ取除トシ周知日限ニ拘ラス

各國ト同時ニ施行ス可キモノトスルナリ

○三十一番 渡邊 假ヒ十一月ト爲スモ必ス人民ニ周知セシムルハ難

シ故ニ之ヲ行政者ノ所見ニ委シ周知ノ法ヲ得ルニ於テハ九月前ニ

施行スルモ或ハ不可ナカラシ到底修正説ハ漫然タルヲ免カレヌ

○十七番 伊丹 重賢 之ヲ十一月ト爲スハ決シテ漫然タルニ非ス既ニ政府

ノ周知日限ヲ制定シタルハ十分ニ其目的アルカ爲メナラスヤ然ル

ニ九月一日トセハ其目的ヲ達スル能ハサルモノト認ムルヲ以テ之

ヲ十一月ニ更メント欲スルナリ此ノ如クスルモ人民ノ周知ハ仍ホ

期スヘカラストセハ周知日限ノ規則モ亦采ルヘカラスト云フカ如

シ其レ然ラハ本官將タ何ヲカ言シ

○三十四番 玉乃 世履 本按ヲ九月一日ヨリ施行スヘシト云フハ抑々何ノ

見ル所アリテ然ルヤ此法律タル各位モ論スル如ク萬國公法トモ稱

スヘキモノナレハ特ニ之ヲ慎ミ且重ンセサルヘカラスト云フモノナリ

縱ヒ各國ハ九月迄ニ其人民ヘ周知セシムルヲ得ルモ我々之ヲ周知

セシムル能ハス故ニ同時ニ實施ス可ラスト云ナリ或議官ハ海上ノ

コハ萬國公法ニ遵ハサル可ラスト云ト雖モ原來公法ノ精神ハ太ハ

小ヲ壓シ強ハ弱ヲ制スルヲ防クカ爲メ作ルモノナラスヤ然ハ則チ

我ハ周知日限ノ規則アリ到底九月迄ニハ人民ヘ周知セシムル能ハ

サル限リハ之ヲ同時ニ施行シ難シト云モ彼ニ對シテ決シテ恐懼ス

可キノ理ナク彼又公法ヲ以テ我ヲ責ル能ハサルナリ加之本按ハ船

舶ニ責任ヲ負ハシムル等我ニ在テハ實ニ新奇且重大ナリ

素ヨリ舊新大差ナシト云フヘカラス宜ク人民ノ周知ヲ俟テ後之ヲ

實施スヘシ故ニ本官ハ前説ヲ固執シ確トシテ動カサルナリ

○十六番 中村 弘毅 三十四番ノ説ハ理論タルニ過キス縦ヒ之ヲ延期スル

モ我法律ヲ以テ彼ヲ制スルヲ能ハサル以上ハ依然人民ノ禍害ヲ避

ケシムル能ハス故ニ本官ハ周知日限ノ規則ニ拘ラス之ヲ特別ノ法

トシテ九月迄ニ周知セシメ各國同時ニ施行セシメントスルナリ

○議長 議已ニ盡ルヲ認ム決ヲ取ルニ際シテ十七番并ニ其賛成者ニ

間フ全體ノ主趣ハ九月一日ニテ周知日限ノ規則ニ支吾スルヲ以

テ延期スヘシト云フニ在ルカ

○十七番 伊丹 重賢 然リ

○議長 十七番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者七人

○議長 少數ナルニ由リ十七番ノ説ハ消滅シ本按ニ決ス時既ニ午ヲ

過ルヲ以テ一應散會午後第一時ヨリ再ヒ開議スヘシ

○十六午後零時第二十三分開場

○十六午後第一時三十五分開場

所勞ニ依リ 退席 十一番 津田 眞道

○議長 午前續會ヲ開ク

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

海上衝突豫防規則

總則

第一條 此規則中蒸氣船ト雖凡帆ニテ走り蒸氣ヲ用ヒサル時ハ帆

前船ト看倣シ蒸氣ヲ用ユル時ハ帆ヲ用ユルト用ヒサルトノ差別

ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

○二十一番 細川潤次郎 本按ノ看倣シハ看倣シノ誤刷ナル可シ之ヲ改メ

ント欲ス

○二十七番 中島信行 賛成

○議長 二十一番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○十六番 中村弘毅 賛成

○議長 二十一番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 全會悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ二十一番ノ修正ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 教左ノ按ヲ朗讀ス

燈火 二星

第二條 各船日没ヨリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ラズ第三條第四條

第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ記載スル燈

火ヲ掲クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用ユヘカラス

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第三條 蒸氣船ハ航海中必ズ左ノ燈火ヲ掲クヘシ

(甲) 前橋又ハ其前面ニ於テ船体上ニ二丈ヨリ低クカラサル所ニ三亮

明ナル白燈一個ヲ掲クヘシ若シ船幅二丈ヲ超ル時ハ船体上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ二十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ左右舷外
 ○船幅十方位ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ五里海里ニテ算スノ以下之ニ倣ヘ
 ○距離ヨリ見ユヘキモ少ヲ用ユヘシ
 ○(乙)右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用ユヘシ
 ○(丙)左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ

發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用ユヘシ

(丁)右綠紅入舷燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出タル屏風様ノ隔板ヲ其燈火ノ内側ニ當テ、裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見ヘス左舷燈ハ右舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル様ニナスヘシ

○十七番伊丹重賢丁項ノ右綠紅云々ハ右舷左舷ト對シ太々嫌ヒアルヲ以テ前二項ノ綠紅云々ト修正セントス

○外一番甲口前會ニ於テ海里丈量ノ布告ニ就キ三十四番ノ質議アリ仍ホ之ヲ調査セシニ明治五年第百三十五號布告ニ明瞭ナルニ由テ之ヲ辯シ置ク

○一番利行 十七番ノ修正説ヲ賛成ス

○議長 十七番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○二十一番細川潤次郎 原來本按ハ英文ノ翻譯ニシテ其原書ヲ視レハ右

以字ヲ當レリトス既ニ第五條ニモ右黒球ト云ヒ右ノ船ト云ヒ第十

條ニモ右漁船ト云フ如ク皆同様ノ義例ニ譯セリ且原文ト参照スル

ニ於テモ便ナレハ本按ニテ可ナリ十七番ノ修正ニ從フ能ハス

○議長 十七番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルニ由リ十七番ノ修正説ハ消滅ス

○二十一番細川潤次郎 乙項ノ少ナクモノナ字ヲ削除シ甲丙丁ノ三項ト

文體ヲ同一ニスヘシ

○十九番柴原和 賛成

○議長 二十一番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○十七番伊丹重賢 賛成

○議長 二十一番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

○全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ二十一番ノ修正ニ決シ次條ヲ移ルヘシ

書記官森山茂

第四條 蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ兩舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈

○二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ、縦ニ連掲シ獨走ノ蒸氣船

ト區別スヘシ此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ掲クル白燈ト同製ナルヲ

○用ヒテ同所ヘ掲ケヘシ

○議長ヨ本按ニ同意者ハ起立スヘシ

○全員悉起立出立ハ議去ハ蒸氣船ニ掛ルニ白燈ノ同列ナレバ

○議長固全會一致ナルニ由リ次條ニ移ルヘシニ要請ニ議去ハ蒸氣船

第五條ヨ帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク海底電信線ノ布置又ハ引揚

○議ニ從事スル時及ヒ事變リ爲キ運用自由ヲ得ナル時利夜間ハ直徑

八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船

○議員掲タル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレバ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少

○十カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ又晝間ハ直徑二尺ノ黒球三個

○議ヲ前下橋ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カ

○十カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ

○右黒球及ヒ燈火ハ近寄ル他船ニ於テ運用自由ヲ得スシテ航路ヲ

○避クル能ハサル船ノ信號ト看認ムヘシ

○又右ノ船全ク運行セサル時ハ舷燈ヲ掲クヘカラスト雖モ運行スレ

○然ハ必ス之ヲ掲クヘシ

○一番齊藤第一項ノ末ナル前下橋云々下字ヲ削除シテ前橋云々

トシ第三條甲項ノ前橋云々ト文體ヲ同フスヘシ又第二項ノ「近寄ル

○他船ニ於テ」ハ八字ハ無用ニ似テ之カ爲メ文意錯雜ノ嫌アリハ之ヲ

○モ削除スヘシ然レモ本官ハ原文ヲ解セス若シ其說ヲ以テ原語ニ戻

○七番東久世其下セハ敢テ固執セサルナリ又改訂ノ辭ニ就テハ八字ハ之

○議長一ノ番ノ修正說ヲ問題ト爲ス

○二十一番細川潤次郎 前下橋ノ下字ヲ削除スルハ當レリ原文ニモ下字

○ナシ故ニ之ヲ削ルハ特ニ其他ト文例ヲ同フスルノミナラス原文ト其體ヲ齊フスルヲ以テ之ヲ可トス又近寄ル他船ニ於テノ八字ハ之

ヲ原文ニ照セハ當レルモ布告文ニハ妥當ナラス且其八字ハ目下右字ノ削除ス可ラサルカ如ク他ト關係アルモノニ非ス之ヲ削ルモ亦

妨ケナシ因テ一番ヲ賛成ス

○番一番田口 前下橋ヲ前橋ト爲スハ不可ナシト雖モ近寄ル他船ニ

於テノ八字ハ削除ス可ラス何トナレハ本按ノ如キハ動モスレハ原文ト參照スルモノナルヲ以テ彼是其同一致ナルヲ便利アルヲ以テ

ナリ

○二十一番細川潤次郎 目下ノ問題ハ其發議者ト雖モ熱心之ヲ論スルニ

非ス故ニ一個人ノ修正説ナレモ之ヲ分別シテ決ヲ採リテ可ナラン
仍テ之ヲ建議ス

○二十七番中島信行 二十一番ノ建議ヲ賛成ス

○議長 二十一番ノ建議ヲ採用シテ決ヲ取ルヘシ迺チ前下橋ヲ前橋

ト爲ス一番ノ説ニ同意者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ一番ノ修正ニ決シ尋テ近寄ル他船ニ於テノ八字ヲ削ル一番ノ説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者三人

○議長 少數ナルニ由リ一番ノ修正ハ消滅シ本按ニ決ス次條ニ移ルヘシ

○書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

○第六條 帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カルトトテ差別ナク白燈ヲ

除クノ外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈

ヲ掲クヘカラス

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

○書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

○第七條 小形船ニ於テ天氣ノ模様ニ依リ綠紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難

キ時ハ綠燈ハ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ様甲

板上ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ

近寄り行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ各舷燈ヲ

他船ヨリ最モ見ヘ易キ様各舷ニ標スヘシ但シ此時綠燈ハ左舷ヨ

リ見ヘス紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

此綠紅ノ燈ヲ置違ヒ無ク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ綠色紅

燈ノ燈籠ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且ツ成規ノ隔板ヲ之ニ備置クヘ

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

書記官森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ

船体上ヨリ二丈ヲ超ヘサル所ニ白燈一個ヲ掲クヘシ○此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ
 〇議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

〇議長 全會一致ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用
 ヌル燈火ヲ掲ケス唯檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個
 ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發
 スヘシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同様ノ

〇議長 燈火ヲ掲クヘシ

〇議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

〇議長 全會一致ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

〇議長 全會一致ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

〇議長 書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十條 甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ

用ユル舷燈ヲ掲クルニ及ハス然レモ舷燈ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝
 子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠一個ヲ手近ニ備置キ他
 船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク時ハ衝突
 ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但シ此時ニ

綠燈ハ左舷ヨリ見ヘス紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

右漁船及ヒ小船碇泊シタルカ或ハ網ヲ卸シタル時ハ光明ナル白

燈一個ヲ標スヘシ且便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發スルモ苦シカラズ

○一番藤利本按第五行目但シ字ハ無用ナリ之ヲ削除スルヲ可

○十七番伊丹重賢賛成式ノ誤ヲ照正ス

○議長 一番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○一番田口外 意シ字ハ航海者等無學者ノ爲メニハ之ヲ存スルヲ可ト

○四番安場保和本按若シ其解得シ易キヲ欲セハ特ニシ字ノ如キニ止ラ

ス且第十二條ニモ但ス下シ字ナシ仍テ一番ヲ賛成ス

○二十一番細川潤次郎 諸君モ本按ノ題號ヲ解得スルヲ得ル者ナレバシ字

○十九番柴原和本官ハ他ニ意見アリ乃チ豫メ之ヲ陳ヘ目下問題ノ畢

ルヲ竣テ更ニ提出スルヲ端緒トセシトス例ヘ本邦下總ナル九十

九里ノ如キハ小船ニテ漁業スル者特ニ多シ是等ニ至ル迄悉ク紅綠

燈ヲ備ヘシメンカ其貧困ナル能ク令ヲ奉シテ之ヲ備エ得ヘキニ非

ス是以人民保護ノ法ハ却テ人民ヲ保護トナルナリ仍テ本條第二行

目下ニ面ハノ三字ヲ削除シ第三行目一ニ面フ二字ヲ或ニ作り五行目但

以下悉皆之ヲ削除シ小船ニハ各其擇ヒニ任セ燈ヲ備ヘシメントス
既ニ此説アルヲ以テ本官ハ本按修正按トモ左袒スル能ハサルナリ

○一番齋藤利行 本官シ字ヲ削除セントスルハ唯文章齊一ナルヲ欲シテ

ナリ然レモ既ニ第七條シ字アル以上ハ獨リ本按ニ之ヲ削ルモ未タ
其全キヲ得ル能ハス故ニ本按但字ノ下シ字ハ都テ刪ルカ否ノ決ヲ

取リテ可ナラン仍テ之ヲ建議ス

○六番神田孝平 シ字ハ削除スルヲ可トス其他本按最字ノ下ニモノ字ア

リ自字ノ下ニラノ字アリ且字ノ下ツ字アル等其有無一オラス此
ノ如キモ都テ之ヲ一ニスルヲ可トス

○議長 一番等ノ建議モアリ目下ノ問題ニ可決セハ本案全体ノ但字

ノ下シ字ハ都テ削除セン乃チ一番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘ

○三十一起立者十七人

○議長 多數ナルニ由リ一番ノ修正説ニ決ス

○十九番柴原和 本條ノ如キ外面ハ美ナレモ之ヲ内ニ顧レハ實際行フ

可ラサルニ由リ第二行目一面ハノ三字ヲ削除シ第三行目一面ノ二
字ヲ或ニ作り五行目ノ但以下ハ悉皆之ヲ削除セントス其理由ハ既

ニ豫陳シタルヲ以テ茲ニ贅セサルナリ

○議長 十九番ノ修正説ハ賛成者ナキニ由リ廢棄ス

○三十二番巽作麟祥 本條且字ノ下ツ字ナシ第七條ニハ之レアリテ文體

整齊ナラス仍テ且字ノ下ツ字ハ都テ之ヲ刪ルヲ可トス

○三十四番玉乃世履 賛成

○議長 三十一番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○二十七番中 三十二番ノ意趣ハ太々可ナレモ本條ニハ現ニツ字

○ナシ故ニ此其削除説ヲ發スルハ當ラス此ノ如キハ第三讀會ヲ俟

○第七條ニ就キ之ヲ陳フルヲ至當トス仍テ之ヲ建議ス

○三十一番渡邊 本按ニ唯原文ノ意趣ニ違戻セサランコトヲ勤ムルニ

急ニシテ人民ノ領得シ易キヤ否ヲ慮ルニ急ナラサルカ如ク仍テ之

○三訓點ヲ加ヘテ布告スルヲ可トス

○一番齋藤 三十七番ノ建議ヲ贊成ス從來ノ慣例ニ徴スルモ其議ハ

此ニ發ス可ラストス

○三十四番玉乃 本條ニ就キテ前ニシ字削除ノ説アリ其議ハ全編ヘ

牽連スルヲ以テ遂ニ前條ニ遡リ之ヲ削リタルニ非スヤ目下三十二

番ノ動議ハ又全編ツ字ノ有無ヲ一定セント云フニ在リ此ニアルカ

故ニ彼ニ有ルヲ削ルモ此ニ無キヲ以テ彼ニアルヲ削ルモ其之ヲ均

○フセントスルヤ一ナリ三十二番ノ發議ハ敢テ不可ナシトス

○三十三番山口 三十二番ノ修正説ハ文ノ一致ヲ欲シテ大ニ彼此既

ニ同一ナル精神ニ由リ前條ニ遡リシ字ヲ削除シタル例アレハ今ツ

字ノ此ニ在ラサルモ何ソ前條ニ遡リ修正ス可ラサルノ理アラシヤ

加之其説既ニ問題トナレリ今將タ何ヲカ議セシ宜シ其問題ト可

否ニ就テ之ヲ論ス可キナリ

○二十一番細川 目下ノ問題ハ本條ニ對シテハ毫モ關係アルコトナ

シ本官ヲ以テ之ヲ視レハ此ノ如キハ反則ナリトス仍テ一旦問題ト

ナルモ將來ニ關係スルコトナレハ更ニ之ヲ問題ト爲ス可キヤ否ヲ衆

議ニ問ハレンコトヲ建議ス

○十九番柴原和二十一番ノ建議ヲ賛成ス

○議長 三十二番ノ修正説ハ文章ノ整齊ヲ欲スルカ爲メニシテ且其賛成者アリタルヲ以テ之ヲ問題トシタレモ二十七番等ノ所見亦太

必理アリ仍テ之ヲ衆議ニ問ハシ三十二番ノ動議ハ問題ト爲ス可ラスト思考スル者ハ起立スベシ

起立者十三人

○議長 多數ナルニ由リ三十二番ノ修正説ハ問題外トシテ廢棄ス

○三十一番渡邊昇本條第二項ノ末綠燈云々紅燈云々ヲ綠色云々紅色

云々ニ作ル可シ然ラサレハ綠紅二個ノ燈ヲ要スルカ如キヲ嫌アリテ不可ナリ

○三十三番山口尙芳賛成

○議長 三十一番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○一番齋藤利行三十一番ノ説ノ如ク燈字ハ固ヨリ穩安ナラサレモ之ヲ

綠色紅色ト爲ス未ダ以テ其全キヲ得タリト謂フ可ラス何トナレハ綠色紅色ハ硝子板ノ色ニシテ此ニハ燈火ヲ云フニ在リ故ニ三十一

番ノ説消滅セハ本官ハ現行規則第九條ナル綠光紅光ニ倣ヒ燈字ニ代ルニ光字ヲ以テセントス仍テ豫メ之ヲ陳フ

○十六番中村弘毅本按ヲ可トス本條ニ必シモ他船ニ用フル舷燈ヲ掲ク

ルニ及ハストアリ蓋シ其文意ハ務メテ舷燈ヲ掲クヘシト雖モ硝子板ノ燈ヲ代用スルモ亦妨ケ無シト云フニズリ三十一番ノ説ノ如ク

ハ舷燈ハ用フ可ラスト謂フカ如シ故ニ必スシモ云々ノ文意ヲ咀嚼

セハ自ラ其誤解ナルヲ知ラシムルニシテハ其意ヲ明カニシテ

○二十三番 細川潤 各位モ知了スル如ク本按ハ猶譯文ヲ如シ乃ハ原

文ニ就テ之ヲ視ルニシヤルノツトビト云フゾイテド云テ

○然ラハ揚燈ノ本ハ三十番ヲ解スル如ク必クシモト譯ス可キ文字ハ

原文ニ之ナルモ之ヲ意譯セハ此ニ掲ケサレモ可ナラン然レトモ今

燈ヲ色ト改ムル本寧カニ番ノ言ノ如ク之ヲ光ト爲スヲ勝レルモ如

カス原文ヲ以テトスライトナル語ハ燈燈火或ハ光ト譯スレハ

○此ニハ光トスルヲ以テ安當ナリトスルニシテハ

○外番 田口 三十一番ノ原文ヲ解スルヤ少シク謬リアルカ如クシ

○ヤルノツトビト云フゾイテドトアルハ必ス之ヲ掲ケ可ラスト云フ

○ニ非ス之ヲ掲ケルモ可ナリト視テ宜シ但ライトト云フ燈ト譯シタルハ

○別ニ深意アルニ非サルナリ

○一番 藤 原文ヲ解スルハ本官ヲ能クセサル所ナリ唯本按ニ就テ

○之ヲ視ルニ十六番ノ説理ナキニ非サルモ第七條紅緑ノ二燈ヲ掲ケ

○ルハ原則ニシテ本條ニ然レトモ云々ハ即チ其略則ナレハ只一個兩

○色ノ燈ヲ指スト明白ナリ然レモ既ニ燈字ニ嫌アルヲ以テ之ヲ光ニ

○作ルハ其不可ナキヲ信スルナリ再ヒ之ヲ陳ヘテ本官カ修正説ヲ發

○スルノ端緒ニ備フルコト此ノ如シ

○六番 神田 緑燈紅燈ハ本官亦安帖ナラストス然レトモ之ヲ綠色紅

○色ト爲スハ綠光紅光ト爲スニ如カス因テ一番ヨリ其動議ノ發ルヲ

○三十三番 山口 本官ハ現行規則ハ綠色紅色トアルヘシト信シテ三

○十一番ノ動議ヲ賛成シタル目下一番ノ説ヲ得テ本官ノ誤謬ナルヲ知ル仍テ前説ヲ止メ更ニ一番ノ修正説出ルヲ俟テ之ニ左袒セントス

○議長 三十一番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者一人

○議長 少數ナルニ由リ三十一番ノ修正説ハ消滅ス

○一番齋藤利行 緑燈紅燈ハ緑光紅光ニ作ル可シ其理由ハ前説ニ盡キタルヲ以テ敢テ贅セス

○三十二番箕作麟祥 賛成

○議長 一番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○三十一番渡邊昇 賛成

○議長 一番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長 多數ナルニ由リ一番ノ修正説ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

○第十一條 他船ニ追越サレントスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈

ヲ標シ又ハ閃光ヲ發スヘシ

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

霧中信號

第十二條 蒸氣船ハ汽笛ヲ音響ノ妨碍物ナキ所ニ装置シ且霧中號

角及ヒ號鐘ヲ備フヘク帆前船ハ全様ノ號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ

但此汽笛號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルヘカラス

霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本條ニ記載セル信號ヲ左ノ如

○用ニ用ニハシ

(甲) 蒸氣船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇コト

○長聲ヲ一發スヘシ

(乙) 帆前船航行中ハ號角ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇コト

○右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横

後ニ風ヲ受ケタル時ハ三聲ヲ連發スヘシ

(丙) 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク航行中ニ非サレハ二分時ヨリ

多カラサル間歇コトニ號鐘ヲ鳴スヘシ

○一番 齋藤 利行 本條甲乙丙三項トモニ間歇コトニ云々トアリ而シテ前

第九條第三行目ニハ間歇ヲ以テトアリ本條モ宜ク彼ニ倣ヒコトニ

ヲヲ以テニ作り文ノ整齊ヲ期スルヲ要スヘシ

○六番 神田 孝平 賛成

○議長 一番ノ修正說ヲ問題ト爲ス

○二十一番 細川 潤 賛成

○議長 一番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十六人

○議長 多數ナルニ由リ一番ノ修正ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

霧中速力

第十三條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ

速力ヲ以テ走ルヘシ

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

○起立者二十人

○議長 多數ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

○六番書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

航法

第十四條 二艘ヲ帆前船互ニ近寄りテ衝突ノ懼アル時ハ一方ノ船

一ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

(甲) 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(乙) 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(丙) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同カラサル時ハ左

舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(丁) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シキ時ハ風上ノ

船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(戊) 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

○二十七番中島信行 本條丁項ニ風上ノ船ヨリ他船云々トアルハ風上ノ

船風下ノ船云々ニ作ルヲ可トス其語聲ニ於テハ却テ本按ヲ勝レリ

トスレ原文インワアルド、ピワアルドト云フヲ譯セシモノナレハ

風上ト云ヒ風下ト云フノ適切ニシテ彼此參照ニ便ナルニ如カスト

反上ノ定ヨ風ノイニ云々ノ處四ニシテ對列ニ並ニ置テハニ成ルモイ

○二十四番 林友 贊成

○議長 二十七番ノ修正說ヲ問題ト爲スニ於テハ本對ニ對シ

○外十番 田口 本按ト雖モ其文字ニ至ル迄悉ク原文ノ如クセザルモ

可ナリトセカアルト風下ト譯スルハ其意義ニ於テハ適實ナルモ其

解得シ易キヲ欲セハ他船トアルニ如カス故ニ此ノ如キハ敢テ修正

ヲ要セサルナリトセシニ對シテ風下ト受クテ對シテ同トシテハ風上ト

○六番 神田 二十七番ノ修正ハ未タ少ク不備ナル所アリ本官ハ風上

ノ船ニ於テ風下ノ船云々トセハ即チ明備ナリトス仍テ目下ノ問題

消滅セハ其修正ヲ提出セン

○議長 二十七番ノ修正說ニ同意者ハ起立スベシ問キタル處ノ議程

○六番 起立者十二人

○議長 多數ナルニ由リ二十七番ノ修正ニ決シ次條ニ移ルヘシ且二

十番十六番議官ハ所勞ニ就退席ス各位之ヲ了セヨ

書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第十五條 二艘ノ蒸氣船正シク眞向又ハ殆ト眞向ニ往逢フテ衝突

ノ懼アル時ハ兩船共鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行

過スヘシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ殆ト眞向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル

ル時ニ限り應用スヘク各其鐵路ヲ保チテ必ス替リ行ク時ニ應

用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ殆ト

○十七番 伊丹重賢 賛成

○議長 四番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○議長 四番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十七人

○議長 多數ナルニ由リ四番ノ修正ニ決ス

○十九番 柴原和 豫テ陳ヘタル如ク往逢ハ行逢ニ改ムルヲ可トス

○十七番 伊丹重賢 賛成

○議長 十九番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○議長 十九番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者十七人

○議長 多數ナルニ由リ十九番ノ修正ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

第十六條 二艘ノ蒸氣船互ニ航路ヲ横切り衝突ノ懼アル時ハ我船

ノ右舷ニ他船ヲ見ル方ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者十七人

○議長 多數ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

○議長 書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十七條 帆前船ト蒸氣船ト互ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ蒸氣船

ヨリ帆前船ノ航路ヲ避クヘシ

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者十七人

○議長 多數ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

○書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十八條 總テ蒸氣船他船ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ速力ヲ緩ニシ又ハ時宜ニ依リ停止シ又ハ後退スヘシ突ハ對テハ却テハ蒸氣船

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

○新起立者十七人

○議長 多數ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

○書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十九條 蒸氣船此規則ニ遵テ鐵路ヲ取ル時ハ左ノ汽笛信號ヲ以テ他船ニ其鐵路ヲ通知スルヲ得ヘシ

○議長 短聲一發 我船ノ鐵路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船ノ鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船一杯ノ速力ニテ退却ス

○議長 此信號ヲ用ユルト否ヲサルトハ隨意タルヘシ但此信號ヲ用ヒタル時之ヲ用ヒタル船ハ必ス其信號通りニ其鐵路ヲ取ラサル

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十七人

○議長 多數ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

○書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク他船ヲ追越サントスル時ハ以上ノ規則ニ拘ラス總テ他船ノ航路ヲ避クヘシ

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十七人

○議長 多數ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

○書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀スヘシ

第二十一條 總テ蒸氣船狹隘ノ水路ヲ通航スルニ當リ無難ニ通行

○得ル時ハ其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十七人

○議長 多數ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀スヘシ

第二十二條 以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ

避クル時ハ他船ニ於テ其鐵路ヲ保守スヘシ

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十七人

○議長 多數ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀スヘシ

第二十三條 此規則ヲ遵守スルニ就テハ航海上百般ノ危険ニ心ヲ

配リ且危険切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テ

ハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避クルニ注意スヘシ

○三十一番 邊渡 本條ハ削除ス可シ否ヲサレハ右ニ法ヲ制シテ左ニ

之ヲ破ルカ如キノ嫌アルヲ免レス其故ハ一朝危険ニ遭遇セハ輒チ

本條ヲ口實トシテ強者ハ弱者ヲ壓スルノ弊害ヲ生ス可クレハナリ

是レ航海者ノ注意ノ爲メニ諭告スルハ可ナレトモ苟モ法律ニ掲ク
ルハ不可ナリ

○二十四番 林友 幸 賛成ス法律ニ臨機ノ處置云々ト掲グル如キハ勉メ
テ之ヲ避クヘシ

○議長 三十一番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○二十七番 中島 信行 本條ハ不可ナシ此條規ノ如キハ固ヨリ止ムヲ得サ
ル場合ニ適用ス可キモノニシテ止ム可キニ猶止マスシテ衝突スル

如キコアラハ裁判止其曲事タルヲ免レテ故ニ之カ爲メニ弱ノ肉ハ
強ノ食トナル如キ顧慮ハ決シテ要セス之ナクンハ却テ規則ヲ以テ

人民ヲ困難ニ陷ルヲシムルコアルヲ恐ル、ナリ

○十九番 柴原 和 二十七番ノ説ノ如シ我ノミ本條ヲ削除スルモ外國ニ

於テ之ヲ刪ラサレハ到底我ノミ不利ヲ招クニ至ルヘシ之ヲ存スル

ヲ可トス

○三十一番 渡邊 昇 本按ハ徹頭徹尾萬國ト同一致ナラサル可ラストセ

ハ此會議ヲ開クモ畢竟無用ト云フヘシ編中彼ノ法ヲ斟酌シタルモ

ノアリトハ内閣委員モ既ニ陳述シタルニ非スヤ果シテ然ラハ外國

ニテハ本條ニ遵フモ既ニ前陳スル如キ不是ナル理由アルハ我豈

之ニ倣フヲ要センヤ宜ク之ヲ削除スヘシ

○一番 齋藤 利行 本按ヲ可トス三十一番ノ萬國ニテ遵奉スル例規ト雖モ

之ヲ我ニ移シテ不是ナルモノハ敢テ之ニ倣フヲ要セスト云フハ太

タ本官ノ心ヲ得タルモノナリト雖モ本條ニ就キ之ヲ論スルハ不可

ナリ何トナレハ本條ハ恰モ現行規則第十九條ト同一ナルモノニシ

テ該規則アルカ爲メ三十一番ノ顧慮スル如キ弊害アルハ未ダ曾テ本官等ノ聞カサル所ナリ故ニ本條ヲ存スルモ決シテ支障ナシトス

○三十四番 玉乃 世履 本條ヲ可トス其所謂危険切迫ノ場合ハ早晚之アル

ヤ必セリ既ニ之アレハ又其措置ナカル可ラス然ラハ之ヲ法律ニ掲

クルハ當然ト云フヘシ

○三十二番 箕作 麟祥 本條ハ次條ニ關係スルコ極メテ大ナリ若シ之ヲ掲

ケサレハ却テ規則ヲ以テ人民ヲ災害ニ陥非ラシムルノ恐レアリ況

ヤ一番モ言フ如ク此規則アルカ爲メ未ダ曾テ其害アルヲ聞カサル

ヲヤ三十一番ノ修正説ハ不可ナリ

○議長 三十一番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルニ由リ三十一番ノ修正説ヲ廢棄シ本按ニ決ス

書記官 森 山 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又ハ海員

ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事

六件ニ於テハ船主、船長、乗組人員、各其責ヲ免ル可カラサルモノ

トス

○一番 藤 利行 本條見張ノ怠リ、用心ノ怠リ兩者共ニリ字無用ナレハ

之ヲ刪ルヲ可トス

○議長 一番ノ修正説ハ賛成者ナキニ由リ之ヲ廢棄ス

○三十二番 箕作 麟祥 本條於テハノ下船ノ一字ハ削除ス可シ夫レ無生活

○ノ物ニシテ懈怠ノ責ニ任スル如キハ我國ニ在テハ古來未ダ曾テ其
 ○事アルヲ見聞セサルナリ蓋シ英國等ニ於テハ適マ此事アルモ特ニ
 ○慣習ヨリ來レルモノニシテ決シテ其理アルヲ知ラス必竟懈怠ノ責
 ○ハ金銀ヲ以テスルトモ他ノ動産ヲ以テスルトモ唯甲ノ乙ニ賠償ヲ
 ○爲スアレハ乃チ足レリ何ソ特ニ船字ヲ掲クルヲ須ヒンヤ

○六番 神田 孝平

贊成

○議長 三十二番ノ修正說ヲ問題ト爲ス
 ○三十四番 玉乃 世履 本官ノ思想モ初ハ三十二番ノ所說ト同一ナリシト
 雖モ今ニ至リ大ニ其所見ノ誤謬ナルヲ發見セリ前日大阪兵庫間航
 海船舶衝突ノ件ニ係リ英國人ヨリ我國人ニ對シ賠償トシテ該船舶
 交付ノ訟アリ本官之カ審判ヲ爲スニ方リ其懈怠ノ責ハ我國人ニア

ルモ其船舶ハ其所有品ナラサルヲ以テ慣例ニ由リ原告ノ要請ヲ廢
 斥セリ退テ考フルニ若シ之ヲ以テ慣例トセハ向來衝突アルモ其船
 船自己ノ所有ニ屬セザレハ常ニ其責ヲ薄シスルノ恐レアリ若シ然
 ラハ被害者ノ迷惑ハ果シテ如何ソヤ故ニ彼ト同シク船舶ニ責任ヲ
 負ハシメ以テ其弊ヲ防ク可トス仍テ船字ハ刪ル可ラス
 ○一番 藤 利行 三十四番ニ同意ナリ近來海上裁判所聽訟規則ヲ審査ス
 ルニ適々此事アリ夫ニ其理由ノ存スルアルヲ覺フ仍テ之ヲ削ルハ
 不可ナリトス

○番一 田口 應

船舶ハ他ノ財產ト異ナリ衝突ノ責ニ任スベキ理由ア

ルハ前會既ニ之ヲ辯明シタレモ尙再ヒ之ヲ説明セントス夫レ此無
 生活物ニシテ衝突ノ責ニ任スベキ理由ハ彼レ其衝突ヲ爲スノ具タ

ルヲ以テナリ乃チ之ヲ捕獲拘留スルハ被害者ヲ保護スルノ便法ニシテ其衝突ノ際ニ當リ其船長等遁走伏匿セル時又ハ其所有者ノ遠方ニ在ル時若クハ其船主船長等其衝突ノ責ヲ償フ能ハサル時等ノ場合ニ於テ船舶及ヒ其運賃ヲ以テ其罪ヲ賠償セシムルカ爲メニシテ敢テ他ニ及ホスヲ能ハサルニ因ルナリ此理由アルヲ以テ船字ハ決シテ削除ス可ラスニ同意セシメテ改定條約ニ附録ニ載セシメ

○十七番 伊丹重賢 三十四番モ論スル如ク他人所屬ノ船舶ハ捕獲拘留スヘカラストセハ被害者ノ迷惑ハ想フヘシ故ニ船字ハ削ル可ラス

○三十二番 葉作麟祥 内閣委員ノ説ニ由レハ海上衝突損害ノ賠償ハ財産ニテハ獨リ船舶ニ止リ幾許ノ損害アルモ他ニ及ホサスト云フカ如ク何ソ特ニ船舶ニ限ルノ理アラフヤ此ノ如キハ決シテ船字ヲ存ス

可キ理由ト爲スニ足ラサルナリニハモ詳ニ論ズルニ非ズ其内

○番一 田口惠 思フニ三十二番ハ陸上ノ事件ト海上ノ事件トヲ同一

視セルヲ以テ此惑ヲ惹起セシナルヘシ陸上ノ者ハ固ヨリ船舶ニ限ル可ラスト雖モ海上ニハ其船舶及ヒ其運賃ニ止マルハ歐米各國ノ

○通法ナリ何ソ獨リ我ノミ之ヲ削除スルヲ須ヒンヤ

○三十三番 山岡芳 船字ハ本條ノ主眼ナリ特ニ之ヲ以テ賠償ニ充ルノ

○ミナラス之ヲ捕獲スルニ非サレハ往々詐僞ヲ生スルノ弊アリ畢竟本按ハ本條ノ罰則ヲ以テ其力ヲ得本條ハ船云々トアルヲ以テ其功

用ヲ收ムルモノナリ故ニ之ヲ削除スルハ猶精神ヲ拔除スルカ如ク況ヤ外國ニハ之ヲ載スルニ我ノミ之ヲ削ルノ理アラサルニ於テ

○ヤ十一番 本條ノ旨ハ

○二十一 番 細川潤 本按ヲ可トス衝突ノ責ハ人ニアレトモ其船舶ニ

及ホスハ是被害者ヲ保護スルノ便法ニシテ各國共ニ然ラサルハナ

シ是猶土地ヲ有スル者ニシテ其租税ヲ納ルサル時ハ之ヲ公賣處分

スルコアルカ如シ三十二番ノ説ハ非ナリ

○議長 三十二番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

○三十一 起立者二人

○議長 少數ナルニ由リ三十二番ノ修正説ハ之ヲ廢棄シ本按ニ決ス

次條ニ移ル

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀スヘシ

○別則 此規則ハ各地官府ニ於テ特ニ設定シタル港川其他内

第二十五條

○海ノ航行規則ノ施行ニ干涉セサルモノトス

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ次條ニ移ルヘシ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十六條 此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船

ニ増掲スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定

シタル規則ニ干涉セサルモノトス

○議長 本按ニ同意者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ本按ニ決シ乃チ第二讀會ハ爰ニ閉ツ

○番一 番田口 本按ハ急施ヲ要スルヲ以テ例規ニ拘ラス明日第三讀會ヲ開カレンコトヲ請求ス

○二十一 番細川潤 本按ノ急施ヲ要スルハ各位ノ認了スル所ナリ故ニ第一讀會以來例規ニ據ラス開會シ殊ニ本日ノ如キハ朝來今ニ至

ルモ猶開議アリ且第二讀會ヲ畢ヘ異議亦殆ト盡タリト覺フ仍直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ建議ス重賢又ハ重賢ニ其意ヲマシメテ

○十七 番伊丹重賢 二十一 番ノ建議ヲ賛成ス

○二十七 番中島信行 第三讀會ニ於テモ猶修正説ナキヲ保タス徒ニ急遽ヲ欲シ直ニ第三讀會ヲ開クハ恐ク粗漏ニ失セン故ニ明日ヲ俟チ開

クヲ可トスニ同意者ハ四五人ニシテ

○一 番齋藤利行 二十七 番ノ建議ヲ賛成ス夫レ本按ハ三月中旬ヨリ今日

ニ至ル迄數月ノ久キヲ經テ今本院ニ下付アリシハ是其重大ノモノナルヲ以テ鄭重ニ起草セシナラン然ルニ本日ノ如キハ朝來既ニ夜ニ迨ヒ第二讀會ヲ畢ヘ又次テ第三讀會ヲ開クハ其體面ニ於テモ不可ナリ加之既定ノ所ト雖モ猶修正ス可キ所ナキヲ保タス又其説ヲ提出セントスル者アルモ若干ノ熟考時間ナクンハ或ハ疎漏ニ失セシ如カス明日ヲ俟テ開會センニハ

○十九 番柴原和 本按既ニ九月一日ヨリノ施行ト決定シタル以上ハ瞬時ト雖モ猶豫スヘカラス迺チ一昨日以來變例ヲ以テ開議セシ上ハ

今亦變例ヲ用非本按ノ朗讀ヲ省キ直ニ決議スルモ不可ナシトス仍テ二十一 番ノ建議ニ左袒ス開會スルモ同

○四 番安場保和 僅々一日ノ日子ヲ吝ミ議事ノ粗漏ニ陷ルヲ顧ミサルハ

○本官ノ好マサル所ナリ仍テ二十七番建議ノ如クナランコトヲ企望ス

○六番神田 孝平本官モ亦明日ニ開會スルヲ可トス

○外一番田口 惠直ニ第三讀會ヲ開クハ本員ノ固ヨリ企望スル所ナレ

モ朝來各位ノ勞ヲ憚リ意ヲ枉ケテ明日ノ開會ヲ請求セリ然レモ既

○ニ二十一番等ノ建議アルヲ以テスレハ更ニ今日直ニ開會アラント

ヲ請求ス

○三十三番山口 尙芳建議ヲ爲ス適當ノ順序ヲ論セハ一番等建議ノ如シ

ト雖モ朝來議事ノ景況ヲ視ルニ概シテ字句ノ修正ニ止レリ故ニ直

ニ第三讀會ヲ開キ朗讀ハ之ヲ省イテ可ナリトス新規新令ヲ議スル

時ニ在テモ猶且此例アリ本按ハ現行規則數條ノ改正ニ過キサレハ

今直ニ第三讀會ヲ開クモ敢テ不可ナシトス

○議長 二十一番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者六人

○議長 少數ナルニ由リ二十一番ノ建議ヲ廢棄ス更ニ明日ノ開會ニ

同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルニ由リ明日第三讀會ヲ開クニ決ス本日ハ此ニ散會

スヘシ

午後第八時五十分閉場

平野重八郎五十分閉議

スヘシ

○議員 冬煙セハニ由リ即日發三階會ヲ開クニ決ス本日ハ此ニ議會

議立者十三人

同意者ハ議立スヘシ

○議員 冬煙セハニ由リ二十一日ハ議會ヲ開クニ決ス更ニ即日ハ開會ニ

議立者六人

○議員 二十一日ハ議會ニ同意者ハ議立スヘシ

元老院會議筆記明治十三年七月十五日

○第百九十七號議按海上衝突豫防規則第三讀會

議長佐々木高行代理

出席議員

三番 齋藤 利行

三番 秋月 種樹

四番 安場 保和

六番 神田 孝平

七番 東久世通禧

八番 鶴田 貞皓

九番 本田 親雄

十一番	津田 眞道
十二番	河田 景興
十三番	楠本 正隆
十六番	中村 弘毅
十七番	伊丹 重賢
十九番	柴原 和
二十番	渡邊 麻曠
廿一番	細川 潤次郎
廿四番	林 友幸
廿五番	大久保 一翁
中島 信行	

○第百九十七號議案
 大正御會編纂部第四十二號十月廿七番

三十一番 渡邊 昇

三十二番 箕作 麟祥

三十三番 山口 尚芳

内閣委員 番外 太政官少書記官 田口 惠

午前第九時十三分開場

○議長 本日ハ議長不参ニ由リ本官代理ヲ爲シ第百九十七號議案按第
 三讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議ス可シハ讀メテハ各款式ニ付テ是
 書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

明治七年一月第五號布告海上衝突豫防規則別冊ノ通改正シ來九月一
 日ヨリ施行候條此旨布告候事

○ノ猶豫アルアラハ實際ニ於テハ九月一日ヨリ施行スルモ八月一日ヨリ實行スルモ敢テ不可ナシト雖モ茲ニ本按九月一日トナル上ハ目前第四十八號布令ト扞格スルアルヲ以テ遂ニ其非ヲ不問ニ附スヘカラス是レ本官ノ十七番ヲ賛成スル所以ナリ

○廿七番中島信行賛成ス其問題トナルヲ竣テ本官ハ賛成ノ所見ヲ陳述スヘシ

○議長十七番ノ修正說ハ定數ノ賛成者アルニ由リ問題ト爲ス

○外一番田口本按施行期日ノ動スヘカラサルハ前會ニ於テ既ニ辯明シテ幸ニ可決セシ所ナリ然ルニ本日亦此ノ如キ修正說アリ其間題トナリシハ實ニ遺憾ノ至ナリ夫レ十七番ノ論旨タルヤ之ヲ摘採セハ九月一日トセハ第四十八號ニ抵觸シ人民ニ對シテ不深切ナリ

○ト云フニ過キス然ルニ前會既ニ陳述セシ如ク地方官ニ告ルニ其急施ヲ要スルノ旨趣ヲ以テセハ普ク之ヲ布告センモ本日ヨリ猶四十餘日ノ日子アレハ其三十日間ノ餘裕ヲ人民ニ與フルハ決シテ難キ

○ニアラス況ヤ本按ハ新規ヲ作り新令ヲ發スルト同シカテ又シテ唯現行法律ノ數條ヲ改正増補シタルニ止ルニ於テヲヤ之ニ加フルニ此法律ハ歐米各國ニ則リタルモノニシテ其源ハ彼ノ新聞紙等ニ明瞭記載シタレハ我航海者等ニ在テモ既ニ之ヲ聞知スルヤ疑ヒナク且本按ハ唯其航海者等ニ係ルノ法律ナレハ全國ニ之ヲ周知セシメサルモ或ハ可ナリ然ルニ今暫ク論者ノ意ニ從ヒ之ヲ丹日ト修正スルニ本按ハ外國トノ關係アレハ折角ノ修正モ之ヲ復舊スルコトナキヲ保タヌ是其成果ノ啻ニ政府ニ對シテ毫毛其功ナキノミナラス

人民ニ對シテモ果シテ何ノ深切カアル此修正説ノ如キハ一以テ其理アルヲ知ラサルナリ

○四番安場保和 十七番ヲ賛成ス夫レ修正ノ旨趣タルヤ九月一日トアレ

ハ第四十八號ニ矛盾シ政府ハ人民ニ對シ信義ヲ失フト人民ニ不深切ナルトヲ憂フルトニ在リ誠ニ此修正ノ如キハ上下ニ對シ其体面ヲ失セス其實行ヲ誤ラス苟モ萬國公法トモ稱ス可キモノハ此ノ如ク鄭重慎密ヲ加ヘサル可ラサルモノナリ

○三十一番渡邊昇 十七番ヲ賛成ス施行期日ハ固ヨリ行政者ノ處分ニ委シテ可ナリ而シテ目下ノ問題タル敢テ其旨趣ニ乖違セサルノミナラス猶且一層ノ精美ヲ致セリ

○三十三番山口尙芳 十七番ニ問フ月日ト修正シテ上奏セハ内閣ハ之ヲ

如何スルヤ月日トイフニテ布令スルノ例規ハ本官未タ曾テ聞カセ

ル所ナリ如何伊丹重賢 九月一日ト云ハ第四十八號ニ矛盾スルヲ以テ内リ

且月日ト爲スモ據ル所ナキニ非ス内閣下附ノ議案ニモ單ニ月日本アルモノ往々之アリ藥品取締規則布告按ノ如キ即チ是レナリ

○六番神田孝平 今日ノ修正説ハ奇モ亦太甚シト云フヘシ九一ノ二字ヲ削除シ獨リ月日トシテ空白ヲ存スルニ於テハ之ヲ修正セサルモノ

ト其差果シテ何如ソヤ必竟此説タル延期ノ精神ニ出タリト云ンカ本官ハ益々其不是ナルヲ覺フ何トオレハ九月一日ハ歐米十六ヶ國

同盟セル本規則改正ノ期日ナレハ我亦之ニ違フ可ラス否ラサレハ衝突ヲ防ク能ハサルナリ已ニ我ヨリ彼ニ對シテ此改正ヲ謝絶シ

ルヲナキ以上ハ其責常ニ我ニ歸セン縱ヒ周知日數ニ不足アルカ爲
又我沖繩縣及ヒ小笠原島等ノ人民ニ在テハ或ハ之ヲ知ルノ暇ナシ
トスルモ是等ノ船ハ概シテ其狹少ナルモノナレハ其害ヲ受ル猶少
ヤナルノミ之ニ反シテ那ノ周知日數ヲ株守シ此期日ヲ緩フセハ其
害豈啻ニ沖繩小笠原島等僅々ノ人民ニ止ランヤ是乃チ本按ニ從ハ
サル可ラサルノ理由ナリ
○廿一番細川潤次郎施行期日變換ノ説ノ如キハ前會ニテ既ニ盡キタリ
ト思惟セシニ何ソ圖シ本日モ亦其説ノ議場ニ現出セントハ特ニ本
日九一二字ヲ削除シ其空白ヲ存スル修正ヲ如キハ修正論者自ラ
其功用アルヲ信スルカ本官ヲ以テ之ヲ視ハ決シテ其目的ヲ果ス能
ハズ本院ニテ之ヲ削レハ内閣ニハ之ヲ復スルニ過キストス論者動

モスレハ日夕九月一日トアレハ那ノ周知日數ノ布達ニ矛盾ス故ニ
不可ナリトは何ソ惑ヘルノ甚シキヤ該布達ニ府縣へ送致及ヒ爾後
印刷謄寫ノ日數ハ各二十日ト制定アル以上ハ縱ヒ他ニ急疾之ヲ爲
スノ法アルモ決シテ之ヲ用ヒス必ス各二十日ノ日子ヲ經過スルニ
非サレハ不可ナリト爲スカ苟モ布告後三十日間ノ猶豫アルアラハ
府縣へ送致及ヒ印刷謄寫日數ノ如キハ之ヲ行政ノ便ニ委シ十日ニ
テ辨スルモ可ナリ五日ニテ理スルモ不可ナシトシテ然ルモノナリ
明年施行ノ法律ヲ今年ヨリ頒布スル如キハ本官ト雖モ固ヨリ企望
スル所ナリト雖モ本按ノ如キ例外特別ナルモノニ至テハ其頒布モ
亦例外特別ナラサルヘカラス凡ソ法律ニハ皆其例外ナルモノアリ
該布達ト雖モ固ヨリ然ラサルヲ得ス惡疫流行ニ際シ遽ニ其豫防規

則ラ制定ニ倣然之ヲ實施シタルモ亦其一例ナリ抑々本按ノ例外ト
 爲スルハ海ハ萬國普通ノ共有物ナレハ苟モ之ニ航スル者ハ自カ
 ラ其法ニ遵ハズル可ラズ適々歐米十有六ヶ國ノ共議ニ成リシ規則
 改定ヲ報フル彼若シ我國ヲ野蠻視セバ何爲レシ此報道ヲ爲シヤ然
 ス則チ此報道ヲ得テ我之ニ同意スルハ眞ニ獨立國タルノ本色ニシ
 守之カ爲メニ我國威ヲ頌スルカ如キ杞憂ノナキノミナラス我當ニ
 權柄雀躍以テ彼ト闘シテ該規則ヲ遵奉セントス何ソ那ノ周知日限
 ラ墨守シ其施行期日ヲ殊ニスヘケンヤ特ニ本按ニ限ラス言語文字
 貨幣等百般ノ事皆其各國ト闘ニナルヲ欲スト雖モ世間意ノ如クナ
 ラサルヲ夥シ今適々海上衝突豫防規則ハ歐米強夫國ト同盟シ共ニ
 其施行ヲ一ニスルヲ得ルヲ好期ニ際セリ故ニ設令少支障アルモ之

其爲固ヨリ可ナリ況ヤ毫モ障礙ナキニ於テマヤ更況ヤ我現行規
 則ヲ改正スルニ止マルニ於テマヤ蓋シ均ク規則ナリト云モ那ノ集
 會條例ニ如キニ尙或ハ止ムヲ得ハ其之ナキヲ欲スレモ本按ハ恰モ
 之ニ度シ若シ其下附ナキニ於テハ必スヤ本官ハ内閣ニ向テ其下附
 ヲ請求シ又或ハ其意見ヲ提出セントス今幸ニ此下附アリ豈欣抃之
 且從ハサルヲ得ンヤ

○廿七番中島或論者ハ切ニ本按ヲ噴美シテ止マス遂ニ那ヲ周知日
 數ニ關セザルモ猶可ナリト云フヲ甚シキニ至レリ其奇タル亦極レ
 リ夫レ本按ヲ可ナルト其十六ヶ國ト同一ナルヲ欲スルト本官ト
 雖モ素ヨリ賛成スル所ナリ然レモ日本ハ日本ノ狀態アルヲ以テ自
 カラ之ニ倣ハサルヘカラサルモノアリ迺チ夫ヲ三十日間ノ猶豫ヲ

與フル如キハ前年第四十八號ヲ以テ已ニ人民ニ締約セシ所ナラス
 ヤ故ニ之ニ乖ケハ政府ハ信ヲ人民ニ失スルナリ嘗テ聞ク外國ニテ
 本則ヲ布告セシハ數月ノ前ニアリト設ヒ然ラサルモ我ノ如ク急遽
 ナラサルヤ固ヨリ論ヲ埃ダス之ニ反シ我國ニ在テハ本官輩ト雖モ
 之ヲ知ルヲ得タルハ本按ノ下附アルヲ以テ始メテトス故ニ茲ニ九
 月一日トアレハ其急速ニ失スルヤ從來ノ經歷ニ因リテ証スルニ足
 レリ然ハ則チ外國ノ如何ニ拘ラス其施行期日ハ斷シテ之ヲ緩フス
 ヘシ其成否ヲ問ハス彼ニ屈從セハ何ヲ以テカ能ク其獨立ヲ維持ス
 ヘケン論者ハ動モスレハ急速布告ノ法アリト云フト雖モ從來ノ經
 歷ニ徴シテ其行フヘカラサルヲ知り猶強テ之ヲ布告スルニ於テハ
 縱ヒ彼ニ對シ同盟ノ意ヲ証明スルニ足ルモ實際周知セシメサレハ

終ニ其責ヲ免ルハ能ハス若シ又現行規則ヲ改正ニ過サルヲ以テ妨
 ケナシト云ハ、此改正ハ誠ニ不費用ナリト云ハサルヲ得ス必竟現
 行規則ト大同小異ナルモ改正ハ則チ改正ナリ然ラハ必ス那ノ周知
 日數ニ據ラサル可ラヌ倘シ其法律ヲ破ルモ不可ナシト云フニ於テ
 ハ本官亦何ヲカ云シテ

○三十三番山口過刻ハ唯質問セリ仍テ今茲ニ意見ヲ述シ原來本按

要旨ハ日本ノ名譽ヲ博シ日本ノ幸福ヲ獲ルニ在レハ之ヲ布告ス
 ○ルハ瞬時モ其速カナルヲ要ス然ルニ目下修正説ハ如キハ唯内閣下

附シ議按ハ立法官ニ於テハ之ヲ取舍スルヲ得ルト云フヲ以テ徒ラ
 ニ其本色ヲ顯ハサントスルモ、如シ且單三日月日トシテ布令スル
 一ハ固ヨリ之アルナシ若シ九ニ以テ二字ヲ省テ問奏セハ内閣ハ又之

ニ九ノ二字ヲ填補スルヤ得テ疑フ不カラス然ハ則チ此修正又如
 キハ上下ニ對スルノ好意ニ出ルヤ知ルハ其ヲスル雖モ是毫モ其功
 用ナシ信ス仍テ之ヲ不可トス原本官ノ十七番ニ左袒セシ不九月一日トアレハ那第
 四十八號ヲ抵觸スルト人民周知ノ間トシト思考スルニ因テオキ政
 ○テ故意ヲ以テ下附ノ議按ヲ變更セシト欲スルニ非ス抑々本按ヲ議
 スルニ方リ幾許ノ日子ヲ經過スルヤ固ヨリ豫知ス可ラス又府縣ニ
 送致シ及ヒ印刷ニ付スル等ハ十分之ヲ急行スルノ法アリト云々モ
 是又空想臆測タルニ過キス乃チ九ト五ノ二字ヲ削除シ其理由ハ
 上奏セハ内閣ニ於テモ能ク本院ノ意趣ヲ領得シ從テ適當ノ時日ヲ
 填入スヘシ決テ月日トノミヲ以テ布告スヘシト言ニアラズ是削除

説ノ可ナル所以ナリ

○三十二番案作 麟祥 原按ヲ可トス抑々九一ノ二字ヲ削除スルハ其何ノ
 謂ナルヤ若シ那ノ十一月一日ト爲スカ如キハ眞ニ修正説ト云フヲ
 得ヘキモ目下ノ問題タル名ハ修正ナルモ其實ハ決シテ修正ニ非ス
 九月一日モ月日ナリ八月一日モ亦月日ナリ故ニ九月一日ヲ不可ト
 シ月日ト修正スヘシト論スルハ之ヲ例ヘハ桐ハ不可ナリ樹木ハ可
 ナリト云フノ類ナリ特ニ知ラスヤ桐ハ則チ樹木ノ一ナルコトヲ
 ○十六番中付 弘毅 修正説ハ不可ナリ已ニ三十二番モ論スル如ク某月某
 日ト明揭スルノ説アレハ是修正タルノ名ニ負カスト雖モ單ニ月日
 ト爲ス可シトハ本官其何ノ謂タルヲ知ラス又頗ニ周知日限ヲ引テ
 説クモノアルモ原來商業ニ關スル事件ハ商人之ヲ知り工業ニ係ル

事項ハ工人之ヲ知ルニ切ナル如ク其自家ニ適切緊要ナルカ爲メニ
 ハ必ス早ク之ヲ知ルヘシ縦ニ周知年限アリト雖モ其痛痒相關セザ
 ル者ニ至テハ之ヲ知悉スルハ世間太々稀ナリ本按ハ海上ノ事ニ
 ミ係ル法律ナレハ之ニ關係ナキノ人民ニモ周知セシムルニ及ハス
 シテ之ヲ施行スルモ何ノ不可カアラン又本按ハ其下附ノ遅キヲ咎
 ムル者アリト雖モ是今日ニ在テハ亡兒ノ齡ヲ算スルト一般ニシテ
 寸益ナシ思フニ政府モ這般ノ改定ハ既ニ外國ニ對シテ同意ヲ表シ
 タルモノナルヘケレハ本按事件ニ係リ異論アルハ格別ナルモ其施
 行期日ヲ改ムルカ如キハ畢竟不要用ノ言ト云ザルヘカラスニマモ
 ○議長ニ發議盡タルヲ以テ決ヲ取ラシ十七番ノ修正説ニ同意者ハ起
 立スヘシ

○起立者八人

○議長 少數ナルニ由リ十七番ノ修正説ハ消滅シ本按ニ決ス

書記官 森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

海上衝突豫防規則

總則

第一條 此規則中蒸氣船ト雖モ帆ニテ走り蒸氣ヲ用ヒサル時ハ帆

前船ト看做シ蒸氣ヲ用ユル時ハ帆ヲ用ユルト用ヒサルトノ差別

○四 ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

○二番 藤利行 本條第二行目用ユルノユ字ハ穩妥ナラス七年第五號布

告總括ノ條ニ用フルトアリ乃チユハフニ作ルヲ可トス

○九番 本田親雄 賛成

○十七番 伊丹重賢 賛成

○七番 東久世通禧 賛成

○二十五番 大久保一翁 賛成

○四番 安場保和 賛成

○議長 一番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○廿一番 細川綱次郎 ユフ共ニ不可ナシト雖モ之ヲ撰フニ於テハ本官亦

フヲ宜シトス原來此ノ如ク文法ヲ論スルニ於テハ用ヒノヒ字モ非

ニ作ル可ク目下一番ノ修正モ本條ニノミ係ラス其他ノ條項ニモ用

ユヘカラス或ハ用ユヘシ等ユノ字間ク之アリ仍テ一番ノ修正ニ可

決セハ他條悉ク其義例ニ依テ修正ナランコトヲ建議ス

○一番 齋藤利行 廿一番ノ建議ハ我意ヲ得タルモノナリ我賛成者ト雖モ

○既ニ第一條ヲ修正スル以上ハ通編之ニ依ルハ決シテ異存ナカルヘ

シ仍テ目下ノ問題ニ就キ決ヲ取ラル、其ニ當リ此修正ニ可決セハ

全編都テ修正スル旨ヲ議長ノ宣告アラシコトヲ企望ス

○十一番 津田真道 廿一番ノ建議ヲ賛成ス

○議長 廿一番等ノ建議アリ第一條用ユヲ用フニ修正スル以上ハ其

他悉ク其義例ニ倣フモノトシテ決ヲ取ルヘシ迺チ一番ノ修正説ニ

同意者ハ起立スヘシ

起立者十九人

○議長 多數ナルニ由リ全編用ユハ用フニ修正スルニ決ス時既ニ亭

午ナルヲ以テ午餐ノ爲メ散會スヘシ

正午閉場

第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ記載スル燈火ヲ揚クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用フヘカラス

第三條 蒸氣船ハ航海中必ス左ノ燈火ヲ揚クヘシ

(甲) 前檣又ハ其前面ニ於テ船体上二丈ヨリ低クカラサル所ニ亮明ナル白燈一個ヲ掲クヘシ若シ船幅二丈ヲ超ル時ハ船体上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ二十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ左右舷外ニ十方位ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ五里海里ニテ算スノ以下之ニ倣ヘノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(乙) 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ

發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ

(丙) 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ

(丁) 右舷紅ノ燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出タル屏風様ノ隔板ヲ其燈火ノ内側ニ當テ、裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見ヘヌ左舷燈ハ右舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル様ニナスヘシ

第四條 蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ兩舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈

・二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ、縦ニ連掲シ獨走ノ蒸氣船ト區別スヘシ此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ掲クル白燈ト同製ナルヲ用ヒテ同所ヘ掲クヘシ

第五條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク海底電信線ノ布置又引揚ニ従事スル時及ヒ事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サル時ハ夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船夫レハ蒸氣船ニ掲クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ又晝間ハ直徑一尺ノ黒球三個ヲ前橋ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ

右黒球及ヒ燈火ハ近寄ル他船ニ於テ運用自由ヲ得スシテ航路ヲ

避クル能ハサル船ノ信號ト看認ムヘシ

右ノ船全ク運行セサル時ハ舷燈ヲ掲クヘカラスト雖も運行スレハ必ス之ヲ掲クヘシ

○七番 東久世 通稱 第三條甲第一行低クカラサルノク字ハ冗贅ナリ削除スルヲ可トス

○六番 神田 孝平 賛成

○三番 秋月 種樹 賛成

○十六番 中村 弘毅 賛成

○十七番 伊丹 重賢 賛成

○二十四番 林友 幸 賛成

○議長 七番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲シ直ニ決

ヲ取ラン七番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

○二十 全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ七番ノ修正ニ決ス

○書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

○第六條 帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カル、トノ差別ナク白燈ヲ

○除クノ外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈

ヲ掲クヘカラス

○第七條 小形船ニ於テ天氣ノ模様ニ依リ綠紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難

キ時ハ綠燈ハ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ様甲

板上ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ

近寄り行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ各舷燈ヲ

他船ヨリ最モ見ヘ易キ様各舷ニ標スヘシ但此時綠燈ハ左舷ヨリ

見ヘス紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

此綠紅ノ燈ヲ置違ヒ無ク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ綠色紅

燈ノ燈籠ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且ツ成規ノ隔板ヲ之ニ備置クヘ

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ

船体上ヨリ二丈ヲ超ヘサル所ニ白燈一個ヲ掲クヘシ○此燈火ハ

直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ

○光明ノ光ヲ發シ少クモ周回一里ノ距離ヨリ見ユル様ニ爲スヘシ

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用

フル燈火ヲ掲ケス唯櫓頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個

ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ
 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同様
 燈火ヲ掲クヘシ
 第十條 甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ
 用フル舷燈ヲ掲クルニ及ハス然レモ舷燈ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝
 子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠一個ヲ手近ニ備置キ他
 船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クハ衝突
 ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但此時ニ綠
 光ハ左舷ヨリ見ヘス紅光ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ
 右漁船及ヒ小船碇泊シタルカ或ハ網ヲ卸シタル時ハ亮明ナル白

燈一個ヲ標スヘシ且便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發スルモ苦シカラス

○第十一條 他船ニ追越サレントスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈

ヲ標シ又ハ閃光ヲ發スヘシ

○三十二番 箕作 麟祥 第七條ノ末項且ツノツヲ削リ第十條第四行行々

○ノモハ時ニ作ルヲ可トス

○十七番 伊丹 重賢 賛成

○十六番 中村 弘毅 賛成

○廿四番 林友 幸 賛成

○廿五番 大久保 一翁 賛成

○七番 東久世 通禧 賛成

○議長 三十三番ノ修正說ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 三十三番ノ修正説ハ二個アリ併セテ決ヲ取シ乃チ卅二番ニ同意者ハ起立スヘシ

○廿五 全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ由リ卅二番ノ修正ニ決ス

○七番 東久世 通禮 第九條ヲ修正セントス今之カ説ヲ提出スルモ妨ケナ

○キヤ

○議長 決議ニ先チ豫陳アルモノニ非サレハ之ヲ述ルヲ許サス

○六番 神田 孝平 建議ヲ爲ス本日ハ既ニ特例ニ由リ數條連帶決ヲ取ルニ至レハ七番ノ發議モ亦特例ヲ以テ之ヲ許サル、ヲ可トス

○議長 六番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ計數ニ向テ議長ヨリ白燈起立者十一人、其數ニ計數スルハ四ノ數ニ至リテ議長ヨリ白燈

○議長 多數ナルニ由リ七番ノ發議ヲ許ス

○七番 東久世 通禮 第九條第三行閃光一個ヲ閃光一發ニ作ルヘシ是レ前行白燈一個云々ト其紛雜ノ嫌アルニ因レハナリ

○三番 秋月 種樹 賛成

○六番 神田 孝平 賛成

○四番 安場 保和 賛成

○十六番 中村 弘毅 賛成

○十二番 河田 景典 賛成

○議長 七番ノ修正ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一 番 田口 惠 閃光一個トハ其放光ノ數ヲ云フモノナレハ本按ニテ

○可ナリトス

○議長 七番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

○起立者七人

○議長 少數ナルニ由リ七番ノ修正説ハ之ヲ廢棄ス

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

○霧中信號

第十二條 蒸氣船ハ汽笛ヲ音響ノ妨碍物ナキ所ニ裝置シ且霧中號

角及ヒ號鐘ヲ備フヘク帆前船ハ全様ノ號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ

○但此汽笛號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルヘカラス

霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本條ニ記載セル信號ヲ左ノ如

○ク用フヘシ

○(甲) 蒸氣船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以

テ長聲ヲ出發ス

○(乙) 帆前船航行中ハ號角ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以

テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横

後無風ヲ受ケタル時ハ三聲ヲ連發スヘシ

○(丙) 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク航行中ニ非サレハ二分時ヨリ

多カラサル間歇ヲ以テ號鐘ヲ鳴スヘシ

○霧中速力

第十三條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ

速力ヲ以テ走ルヘシ

○(甲) 航法

第十四條 二艘ノ帆前船互ニ近寄リテ衝突ノ懼アル時ハ一方ノ船

ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

(甲) 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(乙) 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路

ヲ避クヘシ

(丙) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同カラサル時ハ左

舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(丁) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シキ時ハ風上ノ

船風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

(戊) 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十五條 二艘ノ蒸氣船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢フテ衝突

ノ懼アル時ハ兩船共鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行

○通過スヘシ

○八番本條ハ兩船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル

○七番時ニ限り應用スヘク各其鐵路ヲ保チテ必ス替リ行ク時ニ應用

○六番スヘカラス

○三番本條ヲ應用スヘキ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ殆ト

○十六真向ニ行逢ヒタル時即チ晝間ハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線

ヲ又ハ殆ト一直線ニ見ユル時夜間ハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ一時ニ

見ル時ニ限ルヘシ

○六番本條ハ晝間他船ノ我鐵路ヲ横切りテ我船ノ前面ニ見ユル時又

ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠

燈ニ對スル時又ハ我船ノ前面ニ綠燈ナクシテ紅燈ヲ見或ハ紅

燈ナクシテ綠燈ヲ見ル時又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他

ノ位置ヲ見ル時ハ應用スルカラス

○六番 神田 第十四條丁ノ末文「風上ノ船風下ノ船」云々ヲ風上ノ船ヨ

リ。風下ノ船云々ニ作ラントス同條丙ノ末文ニモ風ヲ受タル船ヨリ

云々トナル如ク其他類例多キヲ以テ之ニ據リ改メントスルナリ

○十六番 中村 贊成

○三十三番 巽作 贊成

○七番 東久世 贊成

○十七番 伊丹 贊成

○八番 鶴田 贊成

○議長 六番ノ修正說ハ定數ノ贊成者アルヲ以テ問題トナス

○議長 六番ノ修正說ニ同意者ハ起立ス

起立者十三人

○議長 多數ナルニ由リ六番ノ修正ニ決ス

書記官 森山 左ヲ按テ朗讀ス

第十六條 二艘ノ蒸氣船互ニ航路ヲ横切り衝突ノ懼アル時ハ我船

ノ右舷ニ他船ヲ見ル方ヨリ他船ノ航路ヲ避ク

第十七條 帆前船ト蒸氣船ト互ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ蒸氣船

ヨリ帆前船ノ航路ヲ避ク

第十八條 總テ蒸氣船他船ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ速力ヲ緩ニ

シ又ハ時宜ニ依リ停止シ又ハ後退スヘシ

第十九條 蒸氣船此規則ニ遵テ航路ヲ取ル時ハ左ノ汽笛信號ヲ以

テ他船ニ其鐵路ヲ通知スルヲ得ヘシ

短聲一發 我船ノ鐵路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船ノ鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船一杯ノ速力ニテ退却ス

第十此信號ヲ用フルト否ラサルトハ隨意タルヘシ但此信號ヲ用ヒ

タル時之ヲ用ヒタル船ハ必ス其信號通りニ其鐵路ヲ取ラサル

第二十條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク他船ヲ追越サントスル時

ハ以上ノ規則ニ拘ラス總テ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 總テ蒸氣船狹隘ノ水路ヲ通航スルニ當リ無難ニ通行

シ得ル時ハ其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十二條 以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ

避クル時ハ他船ニ於テ其鐵路ヲ保守スヘシ

第二十三條 此規則ヲ遵守スルニ就テハ航海上百般ノ危険ニ心ヲ

配リ且危險切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テ

ハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避クルニ注意スヘシ

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又ハ海員

ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事

件ニ於テハ船主船長乗組人員各其責ヲ免ル可カラサルモノト

ス

別則

別則

第二十五條 此規則ハ各地官府ニ於テ特ニ設定シタル港川其他内

海ノ航行規則ノ施行ニ干涉セサルモノトス

第二十六條 此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラレ、船

ニ増掲スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定

シタル規則ニ干涉セサルモノトス

○三十一番 箕作 麟祥 第十六條我船ノ右舷ニ他船ヲ見ル方トアルヲ我右

舷ニ他船ヲ見ル船云々ニ作ル可シ何トナレハ見ル方トアルハ一

方ノ船ヨリ見ルニ非スシテ船ノ一部分ヨリ見ルヲ云々如キ嫌疑

アルヲ以テナリ

○三十三番 山口 尚芳 賛成

○六番 神田 孝平 賛成

○十三番 楠本 正隆 賛成

○十五番 大久保 一翁 賛成

○三番 秋月 種樹 賛成

○議長 三十三番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ヌ

○一番 齊藤 利行 賛成ス且他條ニ於テ本官別ニ修正説アリ自下ノ問題決

スルヲ俟テ之ヲ提出セン

○二番 秋月 種樹 本官モ亦他條ニ就テ修正説アリ此議決スルヲ俟テ之ヲ

提出ス

○議長 三十三番ノ修正説ニ同意者ハ起立ス

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ由リ三十三番ヲ修正ニ決ス

○一番齊藤利行 第十八條ニ又ハ時宜ニ依リ云々又ハ後退スヘシトアリ
 現行規則第十六條ニハ又ハ時宜ニ依リ云々且後退ス可シトアリ且
 ト又トハ其字意少ク殊ナリ且其句調モ又ハ云々又ハ云々トアルハ
 重複シテ妥帖ナラス仍テ現行規則ノ如ク第二ノ又ハハ且ニ作ルヲ
 ○可トス
 ○四番安場保和 賛成
 ○二十一番細川潤次郎 時宜ニ依リ停止シ又ハ後退云々トアレハ其意味
 ○於テ停止若クハ後退スヘシト云フカ如ク可ナルニ似タレモ之ヲ
 原書ニ照スニ停止シ猶後退スルノ意ニシテ且ノ字大ニ中レリトス
 ○仍テ一番ノ修正説ヲ可トス
 ○十七番伊丹重賢 賛成

○十六番中村弘毅 賛成
 ○九番木田親雄 賛成
 ○三十三番山崎如 賛成
 ○議長 一番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス
 ○六番神田孝平 原案ヲ可トス速力ヲ緩ニスルト停止スルト後退スルト
 ○三個各其別ナカル可ラス故ニ文法ヲ以テ云フモ修正説ハ不可ナリ
 ○八番嶋田 六番ノ説ノ如シ三個各其別ナキハ不可ナリ
 ○議長 一番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシト本會ヲ以テ
 ○起立者九人
 ○議長 多數ナルニ由リ一番ノ修正ニ決ス
 ○三番秋月種樹 第二十六條ニハ制定第廿五條ハニ設定トアリ原來設置

○二十五七設立ト云七共三不可諸シト雖モ設定ト云フハ妥帖ナラズ仍
テ第廿五條ノ設定ハ制定トシ共三同一形ニスルヲ可トス

○一番藤 齋 贊成

○十三番楠木 正隆 贊成

○三十二番實作 興 贊成

○十七番伊丹 重賢 贊成

○七番東久世 通禧 贊成

○三十三番山口 尙芳 贊成

○議長 三番ノ修正説ハ定數以上ノ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○四番安場 保和 第二十五條ニハ各地官府云々トアルニ由リ之ヲ設定ト

○第二十六條ハ各國政府云々トアルヲ以テ制定トシ其意已ニ異ナ

レハ其文字ヲ殊ニセリト覺フ仍テ原按ヲ可トス

○三十三番山口 尙芳 外國ニテハ地方官府ニ於テ制定スルノ權アリ故ニ

政府ニ於テスルモノト地方官府ニ於テスル者トハ區別アルヘシト

雖モ我國ノ如キハ悉ク大政府ノ制定ニ據ラサルモノナシ故ニ制定

ト爲スモ不可ナシトス

○議長 三番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長 多數ナルニ由リ三番ノ修正ニ決シ即チ本會ヲ以テ確定決議

トシ例ニ遵ヒ上奏スヘシ散會セヨ

午後第一時五十七分開場

子多様一御正寸分閉

イノ内ニ無ク土表ノヘシ端會サレ

○議員 多様七ノニ由リ三番ノ對五ニ央シ四ヤ本會ヲ以テ歸家央籍

議立者十八

○議員 三番ノ對五籍ニ同意者ハ議立スヘシ

イノ會ヲキ不申セシイヌ

○議員 三番ノ對五籍ノ歸家ニ對テヤ本會ノセシハ正シク姑ニ歸家

議立ニ欲ヤスルイノ此式官籍ニ欲ヤスル者イハ歸家マシハシイ

○三十三番山口 松岡ニテハ此式官籍ニ欲ヤ歸家スルノ辭マシ姑ニ

イハ其文字モ未ニサレシイ議テ決テ照對モ可イヌ

元老院會議筆記明治十三年七月十九日

○第百九十八號議案 傳染病豫 檢視會

議長 佐々木高行 代理

出席議員

- 一番 齋藤 利行
- 三番 秋月 種樹
- 四番 安場 保和
- 六番 神田 孝平
- 七番 東久世通禧
- 八番 鶴田 皓
- 九番 本田 親雄

- | | |
|-----|-------|
| 十一番 | 津田 眞道 |
| 十二番 | 河田 景與 |
| 十五番 | 大給 恒 |
| 十六番 | 中村 弘毅 |
| 十七番 | 伊丹 重賢 |
| 十九番 | 柴原 和 |
| 廿一番 | 細川潤次郎 |
| 廿二番 | 黒田 清綱 |
| 廿三番 | 福岡 孝弟 |
| 廿四番 | 林 友幸 |
| 廿五番 | 大久保一翁 |

- | | |
|------|-------|
| 廿七番 | 中島 信行 |
| 廿八番 | 河瀬 眞孝 |
| 廿九番 | 伊集院兼寛 |
| 三十番 | 水本 成美 |
| 三十一番 | 渡邊 昇 |
| 三十二番 | 箕作 麟祥 |
| 三十三番 | 山口 尙芳 |

午前第九時四十七分開場

○議長 議長他ノ公務ニテ欠席ニ付キ本官代理ヲ爲シ第百九十八號
 議案ノ檢視會ヲ開ク然ルニ本案ハ條項許多ナルヲ以テ慣例ニ因リ
 通牒文ト布告文ノミヲ朗讀セシム可シ

書記官

森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

傳染病豫防規則

右便宜布告ノ後其院檢視ニ被付候事

明治十三年七月九日

左大臣熾仁親王

議長大木喬任殿

明治十二年八月第三拾貳號虎列刺病豫防規則ヲ廢シ傳染病豫防規則
左ノ通相定候條此旨布告候事

○二十一番

細川潤次郎

本案ハ便宜布告ノ後檢視ニ付セラレタル者ナレ

ハ更ニ陳辨ヲ要セスト雖モ本官ハ中央衛生會長ヲ兼ルヲ以テ與テ
本按ノ來歴ヲ知レリ故ニ之ヲ述テ其不備不明ナラサル所以ヲ証明
セントス夫レ傳染病ハ特ニ虎列刺一個ニ限ラス腸室扶斯赤痢痘瘡
等亦同一般ナルヲ以テ共ニ其豫防規則無ル可ラス已ニ前年之ヲ制
定セント欲スル時ニ當リ虎列刺病ノ流行特ニ熾ニシテ頗ル其豫防
ニ急ナルヲ以テ假ニ其規則ノミヲ制定シ次テ又内務省ノ布令等ア
リ然レトモ其法極テ過嚴ニシテ或ハ人情ニ背馳スル所ナシト爲サ
ス是レ前年各地方ニ於テ警察署ヲ破毀シ或ハ其官吏ヲ殺傷セル等
人民ノ騷擾ヲ來セシ所以ナリ故ニ這般ハ大ニ其法ヲ緩フセリ乃チ
第七第八ノ兩條ヲ以テ之ヲ証スルニ足ル蓋シ強テ患者ヲシテ避病
院ニ入ラシメス又要用ノ外云々トナシテ必須ナル事件アレハ患者

ト雖モ他人ト交晤スルヲ許ス等ノ類是ナリ原來本規則ノ如キハ總
テ他ノ法律ト殊ニシテ特ニ關涉主義ニ係ルモノアルモ亦已ムヲ得
サルナリ然リト雖モ其止ムヲ得ル者ニシテ猶且止マサルトキハ民
心ノ支離ヲ來スヤ必セリ故ニ本按起草ノ始ニ方リ專ラ意ヲ此ニ注
キ以テ寬苛其宜キヲ得タル法按トハナレリ抑本按ハ他ノ惡疫ニモ
適用セシムル者タルヲ以テ或ハ妄ニ舊規則ヲ緩フセリトノ說アル
モ知ルヘカラスト雖モ惡疫ノ恐懼スヘキハ啻ニ虎列刺ノミニ止ラ
ス痘瘡ノ如キハタトヒ其最モ輕症ナルモノタルモ全國中之力爲ニ
死亡セル者ヲ以テ彼虎列刺ニ感シテ斃ル、者トノ數ヲ計較セハ痘
瘡ノ方却テ其多キニ居ル可シ豈其豫防ヲ怠ルヘケンヤ又此規則ハ
僅々二十餘ノ條ニシテ尙且ツ他ノ諸病豫防ノ一ヲ擧ク太々疎漫タ

ルヲ免レストナスモノアルモ料リ難シト雖モ是決シテ然ラス何ト
ナレハ別ニ其傳染病豫防心得書ナル者アリ廼チ該書ハ之ヲ類別シ
テ清潔、攝生、隔離、消毒、ノ四個ト爲シ清潔法ハ室内ノ灑掃浴身洗衣等
ヲ云ヒ攝生法ハ飲食運動ノ適度等ヲ云フ蓋シ清潔ト攝生トハ相似
タルモノ、如キモ清潔ハ外ヨリ入ルモノヲ防キ攝生ハ自ラ疾病ヲ
來スヲ警ムルモノナリ隔離法ハ既ニ病ニ感染シタル者ヲ別異シ妄
ニ他人ト交通ヲ爲サシメス概シテ他人ヘノ傳染ヲ防ク等ヲ云ヒ消
毒法ハ患者ノ病室及ヒ其室中ノ器具及ヒ看護人ノ衣服ニ石炭酸ヲ
散布スル等ノ如キ其患者ノ生死ニ關セス都テ之ヲ施スヲ云フノ類
詳細遺ス所ナシ故ニ本案ハ簡略ニシテ唯其要ヲ示スカ如シト雖モ
之ヲ要スルニ此兩者相待テ簡密共ニ用ヲ爲スモノト見テ可ナリ此

ノ如キ理由アルヲ以テ本案ハ毫モ不備不明等ノ廉ナシトス

○議長 本案ハ不備不明ノ廉ナシト思考スル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致明備ナリトスルヲ以テ例ニ從ヒ上奏ス可シ散會セ

ヨ

午前第十時十二分閉場

元老院會議筆記明治十三年九月六日二番

○第百九十九號議按酒造稅則布告按、釐餉營業稅則布告按、第一讀會按、自家飲料酒類製造定限布告按

議長大木喬任

出席議官十次務

一 番 櫻田 英世

二 番 神田 孝平

三 番 東久世通禧

四 番 佐々木高行

五 番 山口 尙芳

六 番 黒田 清綱

七 番 箕作 麟祥

十二番 楠本 正隆

十三番 福岡 孝弟

十四番 河田 景興

十五番 安場 保和

十六番 細川 潤次郎

十七番 伊丹 重賢

十八番 中村 弘毅

十九番 岩村 通俊

二十番 渡邊 驥

廿一番 鶴田 皓

廿二番 大給 恒

○重百式十火警編纂 廿一番 鶴田 皓

元表列會編纂 出題部十三季式日六廿二番

編纂 大木

廿三番 齋藤 利行

廿四番 福羽 美靜

廿六番 柴原 和

廿七番 津田 真道

廿八番 大久保 一翁

廿九番 伊集院 兼寛

三十番 中島 信行

三十一番 玉乃 世履

三十二番 林 友幸

三十三番 渡邊 昇

三十四番 河瀬 真孝

○編纂 重百式十火警編纂 三十二番 林 友幸

元表列會編纂 出題部十三季式日六廿二番

編纂 大木

内閣委員 番外一番 太政官權大書記官 殿野 真琢

午前第九時五十分開場

○議長 第九十九號議按第一讀會ヲ開ス但本按ハ酒造稅則暨釀造業稅則及自家飲料酒類製造定限等ヲ布告按アリ故ニ其混雜ヲ防カ

シ爲メ先ツ酒類稅則ヨリ順次三段ニ分チテ質議ニ付セントス各位

例ニ遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告按

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年廿月番日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

酒造稅則

第一章

免許鑑札 稅率

第二條 凡ノ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願

出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケベシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製

造スルヲ得ベシ

二類 釀造酒

清酒 濁酒 其他 釀造

二類 蒸溜酒

燒酎 其他 蒸溜

第三類 再製酒

銘酒 味 淋 白 酒 等 釀 造 蒸 溜 ノ 酒 類 ヲ 調 和 シ 又 ハ 之 ヲ 元 ト シ テ 製 造 シ タ ル モ ノ ヲ 云 フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ

如シ

酒造免許税

三酒造場一箇所ニ付

金三拾圓

酒類造石税

一類壹石ニ付

金貳圓

二類壹石ニ付

金三圓

三類壹石ニ付

金四圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第五條 免許ヲ請フ者ハ毎年九月三十日迄ニ管廳ニ願出ヘシ右期

日ヲ過クレハ免許セサル者トス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出

シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其

旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章

納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

第二期 七月三十一日限

第三期 九月三十日限

七月一日ヨリ六月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

七月一日ヨリ六月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額并前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ

總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混

和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製スル時ハ造

石稅ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ニ二類ヲ三類

スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ造石稅ヲ納メ更ニ變製ノ石

數ニ就テ造石稅ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ズ管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成再比ハ

第十條ノ手續ニ據テ検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管

廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造

石稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石

數ニ係ル造石稅ヲ免除スヘシ

第十八條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキ付何酒類ヲ問

ハス其仕込タル酒も也其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ

検査ヲ受クヘシ

第十九條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳ヘ申出其容

量ノ検査ヲ受クヘシ
但賣買等ハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十條 酢製造及ヒ酒もと并ニ麴ヲ販賣スルヲ許サズ

第二十一條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ製造スルヲ許サズ

第二十二條 検査済ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消費スルヲ

許サズ

第二十三條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サズ

第二十四條 造酒推リ器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使

用スルハ其旨申出開封ヲ請クヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ

第二十五條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目

石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出

第二十六條 酒造ニ關スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳へ届出

但増減ハ其時々届出

第二十七條 一期造酒届出入石數何酒何石造ト書タル標札ニ免

許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スベシ

第二十八條 藥用ノ酒精アルコ并ニ藥種ヲ混和スル酒類ヲ製造

營業スル者モ總テ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケズシテ製造シタル者ハ其酒類及製造器械

造諸器械ヲモ沒收シ免許税額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル

者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追

徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第一條ニ據テ處分

ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 造酒石數ノ検査ヲ受ケズシテ賣捌キタル時ハ其代價

ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科ス

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒

○三類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但未製成ノ酒類もト雖モ隱蔽シタル者ハ本條ニ據テ處

○一分

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係

ル造石税ニ相當スル金額ヲ三倍ノ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違犯ス

○ニル者ハ壹圓ヨリ少ナカバ三拾圓ヨリ多カラザル罰金ヲ科ス

○番

○外 番 野 抑々明治八年第二十二號布告ヲ以テ舊法ヲ廢シ現行

酒類税則ヲ施行セシ以來尙數次ノ改正増補ヲ爲シ粗其順序ヲ得ル

ニ至リシト雖モ十年以來大藏省當該官検査ノ時ニ臨ミ實地營業上

ニ就テ續々詐偽逋稅等ノコヲ檢出シ今ニシテ全體ヲ改正スル業アリ
 ラサレハ遂ニ其取締ヲ爲ス可ラストス是レ本按ノ成及所以ナリ若
 ○シ改正ノ必須ナル理由ヲ知ラントナラハ大藏省酒造達心得及現行
 酒類稅則ヲ見ハ瞭然タラン因テ逐條ノ辯明ヲ須ヒス

○二十六番柴原和第十五條但書ニ第十一條ノ手續ニ據ルノ文字アル
 モ兩條固ヨリ連絡ヲ爲サシムルモノナリ又第三十條ニ第一條ニ據テ
 云々ノ文字アリ是レ亦第一條ト其氣脈ヲ通セサルモノトス惟フニ
 第三十條中第一條ノ文字ハ前條ノ誤リナラサルカ併テ説明ヲ名ス

○外一番股野第十五條第三十條ノ質問ハ他日ニ讓ランコトヲ乞フ如何
 トナレハ第十一條及第一條ノ文字ハ印行ノ誤リナラントスレバナリ

○二十六番柴原和第一條ニ酒造場一箇所毎ニ下アルハ例ヘハ品川ニ

一箇所青山ニ一箇所ノ謂カ田舎等ニハ往々自房ニ五石隣房ニ五石
 ヲ造ル等ノコアリ此ノ如キモ其位置異ナルヲ以テ猶二箇所ノ免許鑑
 札ヲ受ケサルヘカラストナスカ又第二條ノ類釀造酒ノ脚註ニ清酒
 濁酒其他釀造シタルモノヲ云フトアリ其他トハ何ヲ指スヤ
 ○外一番股野大藏省心得達ニ掲クル一箇所一鑑札ニシテ其酒造場

一箇所トハ一構内ノ精神ナリ又第三條釀造酒ノ脚註ニアル其他ハ
 一々指名スルノ類ヲ省ク爲メナリ即チ濁酒ニモ中酌等アルヲ以テ
 ナリ

○三十番中島信行本按稅則順序フコハ抑々未ナリ現行法律ニハ清酒ニ
 右ニ付稅金一圓ナリ本按ハ之ヲ三圓ト爲ス是レ何ノ要ナル所アリ
 テ然ルヤ蓋シ民人ノ切ニ感觸スルモノハ稅ヨリ甚シキハナシ明治

十一年發布ノ現行法ハ其徵セサルヲ得サルノ理由アリテ然ルナリ
 今何ノ理由アリテ此増徴ヲ欲スルヲ請フ説明アラシクヨリ
 ○外一番股野 單ニ増稅ト云ヘハ其感觸甚シキニ似タリト雖モ從來
 徵收セシ請賣稅ヲ廢スルニヨリ之ヲ補充スルカ爲メニ此舉ヲ要ス
 ルナリ然レトモ現律ノ免許稅拾圓ヲ三十圓ト爲スハ過多ナルカ如
 シト雖モ決シテ然ラス現律ノ例ニ由レハ酒類一種ヲ以テ拾圓トシ
 ○若シ五種ヲ製造セハ五拾圓ヲ出サハルヲ得サル者ナリ故ニ今縱
 令三十圓トナスモ之ヲ増稅トハ云ヘカラス又一圓ヲ二圓トセシモ
 故ナキニアラス乃チ當初一圓ト定メシ時ト今日トノ米價酒價ヲ比
 セハ必ス斯クナラサルベカラサル理由ヲ存ス之ヲ要スルニ本案ヲ
 施行セハ若干増稅ニ至ルヤ知ルヘシト雖モ其徵收ノ金額ヲ使用ス

ルノ目的ハ固ヨリ本員ノ與知スル所ニアラス因テ之ヲ辯セス

○十五番安場保和 元來濁酒ハ國稅中ニ夫レ地方稅中ニ入ルモ亦可ナ

リト云フノ趣旨ナリシニ本案ハ清濁ノ別ナク直ニ國稅中ニ加ヘン
 トス惟フニ兩酒ノ用法甚タ異ナルヲ以テ此ノ如キハ人民ノ不便云
 フヘガラサルモノアリ敢テ其理由ヲ問フ

○外一番股野 從來酒類ヲ六種ニ分チテ之ヲ徵稅セシト雖モ其間味

淋稅ヲ納メテをーヲ造ルモノアリ又酒ノ未タ搾ラサル前ハ混濁
 ナルヲ以テ之ヲ濁酒ト詐稱シ以テ逋稅ヲ謀ル等其弊少ヤナラス是
 レ獨リ管理上差支アルノミナラス從テ犯則人ヲ現出スルヲ以テ本

按ハ之ヲ濶畧シ分テ三種ト爲シ其管理ノ便ト犯則者ノナカラシ
 ○ヲ慮リテ以テ之ヲ草スルモノナリ

○十二番 楠本正隆

抑々本邦從來ノ税法ヲ見ルニ其重クスヘキ酒ニ輕クシテ其輕クスヘキ他品ニ重ク其間大ニ權衡ヲ失フモノアリ故ニ其輕クスヘキヲ輕クシ其重クスヘキヲ重クセントスルハ本官ノ持論ナリ本按ノ如キ其手續上ニヨルキハ稍々潤略ニシテ其便ナルニ似タリト雖モ恐クハ時機ヲ失フモノト謂シカ然レモ方今財政ノ困難ヨリ止ムヲ得スシテ此ニ至リシナルヘシ因テ間フ此増額ヲ要スルハ何ノ理由アリテ然ルカ又過去ノ稅額ハ若干ニシテ本按ノ如クセハ其稅額幾干ノ見込ナリヤ併テ明了ニ説明アラントフ乞フ

○野股一番

外 今確實ニ辯明スル能ハスト雖モ酒類中最多額ナル清

酒ノ一類ヲ舉ルニ十一年度ノ計算ニ由レハ凡三百九十三萬有奇圓ナリ然ルニ本按ノ如クセハ全額内七十萬圓強ノ請賣稅ヲ除去シ更

ニ壹石ニ壹圓ヲ増スルハ其増額大略三百萬圓ニ至ルヘシト思惟セラル但是レ單ニ清酒稅ノ豫算ナリ

○三十一番 玉乃世履

問題ノ部ト未問題ノ部トニ關係スト雖モ止ムヲ得

ス牽連シテ質問セント欲ス酒造稅則第一條ニ凡ソ酒類ヲ製造シテ

營業セント欲スル者ハ云々トアリ 釐釐營業稅則第一條ニ釐釐ヲ營

業スル者ハ云々トアリ是レ其爲サント欲スルモノト既ニ爲スモノ

トノ間ニ區別アルモノ、如シ又酒造稅則第三十二條但書ニ未製成

ノ酒類ト雖モ隱蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ストアリ是レ本條ハ

既製ニシテ但書ハ未製ノモノナリ現行稅則ニ於テモ此區別判然セ

サルヲ以テ説明ヲ司法卿ニ乞フ者少ナカラス本按ノ其區別ハ果シ

テ如何

○外一番股野 第一問ハ唯字句ノ異ナルノミ第二問ハ現行規則第三

則第七條ニヨルモノナリ

○三十三番渡邊 第二條一類ハ二圓二類ハ三圓三類ハ四圓ト逐類壹

圓ヲ増スハ何ノ理ナルヤ其價直ヨリ論到スルモハ當然ナルカ如キ

モ之ヲシテ高價ナラシムルニハ自カラ手數ヲ要スルモノナリ

○外一番股野 其手數ヲ要スルノ報酬ニハ其價直ヲ高クスル爲メニ

其稅額ヲ増スハ理ノ當然ナリ故ニ平均ヲ一石ニ取リシ所以ナリ

○二十二番大給 第十七條ニ前條檢査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ

其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ云々トアリ其再ヒ酒類ニ製成スル

ニモ自カラ區別アリ例ヘハ一類ノ酒氣候ノ不順ニヨリ精製ニ至ル

能ハス此ニ於テ火ヲ入レ再製スルモハタトヘ不充分ナルモ亦酒タ

ルヲ得ヘシ此ノ如キハ未製前ニ一回納稅シ更ニ火ヲ入レテ再製シ

體裁ヲ得ハ再ヒ納稅セシムルノ謂カ

○外一番股野 本按第十七條ハ現行規則第五條ヲ以テ直ニ此ニ掲載

セシモノナレハ敢テ答辯セス

○三十番中島 本官ハ未タ確然増稅ヲ要スル所以ヲ聞ク能ハス抑々

課稅ノ事タルタトヒ一孔錢ト雖モ之ヲ増セハ人民ノ感觸鮮少ナラ

ス然ルニ單ニ若干額ヲ増スモ敢テ不可ナシト云フ如キ空想說ヲ以

テスルハ實ニ寒心ニ堪ヘサルナリ向ニ十一年現行法ヲ議定スルニ

當テヤ現任大藏卿等ト共ニ種々之カ不服ヲ唱ヘタレトモ其止ムヲ

得サルノ理由アリシヲ以テ又己メヲ得ス之ニ曲從シテ本院ノ認可

スル所トナリシ今此増額ノ理由ヲ問ヘハ請賣稅ヲ廢スルニヨリ其

補填ニ充ルモノナリト云リ苟モ請賣稅ヲ廢シ其補填ノ償タラント
 セハ何ソ多額ノ增收ヲ要センヤ惟フニ酒ノ世ニ必要品ニアラサル
 ヲ以テ之ニ重稅ヲ課スルモ不可ナシトノ說ハ古今經濟家ノ固執ス
 ル所ト雖モ亦國家危急ノ秋ヒアラサルヨリハ漫ニ之ヲ爲スヘキモ
 ノニアラス之ヲ要スルニ物價高貴ノ故ヲ以テ增稅スト云ハ、到底
 其目的ヲ知ル能ハス又國庫困難ノ爲ニ之ヲ増スト云ハ、遂ニ其底
 止スル所ヲ知ラサルナリ是ヲ以テ今內閣委員辯明ノ如キ僅ヤノ理
 由ニ止マラハ姑ク本按ヲ中止スヘシ

○三十一番 玉乃 世履 本按第十七條ハ現行法ト同一ナルヲ以テ內閣委員
 ハ質疑ニ答ヘスト辯スレモ現行法第五條ヲ閱スルニ本文但書トモ
 第十七條ト其意味ヲ反對スルカ如シ既ニ意味反對セハ何ソ其理由

ヲ辯セサルノ理アラシヤ

○一番 股野 外 本按第十六條第十七條ハ即チ現行法ノ第五條ト同シ

三十一番ノ云フ所ハ蓋シ改正前ノモノナラン是ニ由テ之ヲ觀レハ
 其精神毫モ差違ナキニアラスヤ

○二十二番 大給 恒 本官向ニ述ル所ハ一類ヲ一類ニ變製スルモ猶一類

ヲ二類ニ變製スルト均ク更ニ收稅スヘシト云フノ意ナリヤト問フ
 ニ在リ

○一番 股野 外 敢テ其類別ヲ問ハサルナリ

○三十一番 玉乃 世履 第十三條ニ云々其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ム
 ヘシトアリ第十四條ニ云々其變製シタル酒類ニ就キハ納ムヘシ

トアリ抑ヤ兩條ノ意味相異ナル所アリヤ又ハ總石數ト云フニ意味

含有スルモノアリヤ

○外一番股野 兩條ノ意味自ラ異ナリ何トナレハ第十四條ハ検査未

○濟ノ酒類ナルヲ以テ其稅額モ亦未定ナリ第十三條ハ之ニ反シ検査

○未濟稅額未定ノ酒類中ニ検査既濟稅額既定ノ酒類混和スルモノナ

ルヲ以テ其總石數ニヨラサレハ之ヲ分析スルヲ能ハサレハナリ

○十二番楠本 第二十一條ニ質議アリ從來造酒家ハ甲乙花主ノ依托

○ヲ受ケテ其醸造ノ額ヲ定ムルヲ慣習ト爲セリ獨リ慣習ナルノミナ

ラス造酒販賣ノ目的ナクシテ唯萬一ノ僥倖ヲ希フカ如キハ抑々良

賈ノ爲サ、ル所ナリ今若シ本按ノ如ク依托醸造ヲ禁スルトキハ從

○前ノ醸造ヲ減却スルヤ知ルヘキナリ蓋シ本按ノ精神タル其鑑札ヲ

受ケサルモノヨリ鑑札ヲ受ケタルモノニ依托シテ醸造シ逋稅ヲ圖

ヲシトスルヲ防クニ在ルカ敢テ辯明ヲ乞フ由ク願書ヲ管關ニ提出

○外一番股野 然リ之ヲ防クニ在リ

○議長 本按ノ質問ハ既ニ盡タリト認ムルヲ以テ次按ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第一布告按

舊翹營業稅則別冊ノ通相定本年 月 日ヨリ施行候條此旨布告候

事

第一條

舊翹營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 舊翹 釀造酒類ヲ營業ノ製造受賣スル者ハ其旨管廳ニ願出免

許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

營業稅 一期金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中

管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出

ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

シ書換ヲ請フマシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳

ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ舊賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑

札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 罰令

第九條 免許鑑札ヲ受ケス舊賣ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業

稅ニ倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記

ヲ怠ルカ其他本則ニ違反スル者ハ科料トシ壹圓ヨリ少ナカラズ

五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

○番一外番股野 釐酒稅ハ當時之ヲ中廢シ現行法ニハ見サル所ト雖モ

明治八年度マテハ已ニ之ヲ徵收セルモノナリ而シテ今此再興ヲ要スルノ理由ハ他ニアラス近年各地方ニ於テ自家飲料ヲ濁酒ヲ造ルモノ年一年ヨリモ多ク其弊ノ到ル所或ハ自飲ト號シ共醸場ヲ設クル等ノモノアルニ至ル東北地方此弊ヲ見ル最モ甚ダシ加フルニ釐麴ノ米ヲ糜スルハ却テ酒ニ優ルノミナラス若シ造酒家ノ之ヲ販賣スルヲ禁スルハ消糜隨テ多ヲ加ヘサルヲ得ス故ニ酒稅ト併行シテ以テ其弊ヲ矯メント欲スル所以ナリ

○二十六番柴原 第一條營業ノ下脚註ニ製造受賣ノ別ナク「トアリ酒類已ニ請賣及小賣稅ヲ廢セハ釐酒モ亦何ソ之ニ倣ハサル本按ノ如キハ即チ製造家ニ二重稅ヲ課スルト云フモ不可ナキニ似タリ況ヤ

大酒造家ニハ必ス受賣ヲ爲スモノナルニ於テヲヤ蓋シ免許ヲ得スシテ恣ニ營業スル者ヲ防カントスル精神ナルカ其如何ヲ問フ

○外一番野 既ニ五十圓ノ稅ヲ納メ得テ營業ヲ爲ス者ハ恐ラクハ多數ヲ見サルヘシ而シテ其受賣人一人ヲ増スハ之ヲ製造家ヨリ見ルトキハ更ニ一株ヲ増モノナレハ敢テ二重稅ノ名ヲ下スヘカラス

○三十番中島 本按ハ須ク施行ヲ中止スヘシ何トナレハ前按ノ請賣稅小賣稅ヲ廢スルニヨリ更ニ增稅ヲ爲スハ或ハ理由ナキニアラス

ト雖モ今委員ノ說ヲ玩味セハ專ラ取締上ヨリ課稅スルモノ、如シ況ヤ既廢ノモノヲ再興スルニ於テヲヤ蓋シ釐酒ハ人世欠クヘカラサル要品ナリ獨リ要品ナルノミナラス田舎ニハ貧人多ク醬油又ハ

味噌ヲ造ルニ各家必ス其醬麴ヲ自製スル能ハス必ス之ヲ他ヨリ買
收スルヲ以テ通例トス然ルニ今請賣小賣及貧富ヲ論セス直ニ五拾
圓ノ營業稅ヲ付セントスルハ豈苛酷ト云サルヘケンヤ

○外一番 野 野 醬麴ハ味噌醬油製造ノ資トナスモノニアラス即酒も

○中島 信行 本按ハ廢棄スルモノニシテハ酒類ノ製造ニ資スルモノニシテハ

○三十番 信行 醬麴ノ當麴ト異ナルコトハ聞ヲ得タリ然レモ本官ハ之

ヲ以テ所見ヲ更ムル能ハス到底前按ト同シク不條理ノ課稅ト謂ハ
サルヘカラス

○議長 本按ノ質疑ハ既ニ盡キタリト認ムルヲ以テ次按ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

自家飲料酒類製造定限布告按

酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スルモノハ一
ケ年壹石 各種製造スルトキハ其總數ヲ合算スニ超ヘカラス若シ壹石ヲ超ルトキハ總
テ酒造營業者ヲ以テ論スヘシ此旨布告候事
但管轄廳ヨリ臨時官員ヲ派出シ造酒ノ數料ヲ檢査セシムルコト
アルヘシ

○十五番 安場保和 本按ハ廢棄スヘシ何トナレハ酒ノ人ニ害アルハ品行

上ヨリ之ヲ論スルモ經濟上ヨリ之ヲ云モ到底其弊ヤ免ルヘカラサ

○ルモ入ナリト雖モ亦概論スヘカラサルモノアリ況ヤ天下ノ事物一

得一失ナキ能ハサルニ於テヲヤ試ニ見ヨ農人工夫ノ事ニ服スルヤ

晚酌ニ一飲シテ終日ノ疲勞ヲ慰シ且之ヲ樂シテ一日ノ勞役ニ從フ

此ノ如キハ其益スル所實ニ鮮少ナラス單ニ理論ノ一偏ヨリ取締法